

# 人権協結成50周年

豊中市人権教育推進委員協議会

あしおと

# 豊中市人権協結成50周年

人権教育をすすめる「市民の集い」

2020年(令和2年)11月5日



## もくじ

・挨拶	2・3	・「市民の集い」のあゆみ	34～36
・豊中市人権協はこうして発足しました	4	・役員・常任委員現地研修会の経過	37
・豊中市擁護都市宣言と私たちの人権協	5	・写真で綴る人権協活動	38～45
・豊中市人権協の組織と運営	6・7	・誌上座談会	46～49
・地区委員会所在地	8	・人権協と「人権文化のまちづくりをすすめる条例」	50・51
・豊中市人権協のあゆみと社会の動き	9～19	・豊中市人権協の進むべき道すじを求めて	52
・豊中市人権協全体活動のとりくみ	20・21	・豊中市人権協役員・常任委員名簿	53～61
・各校区ではこのような活動をしています	22～31	・編集後記	62
・総会のあゆみ	32・33		

---

---

## あいさつ

---

---



豊中市人権教育推進委員協議会  
会長 島田 忠雄

今年は、人権協結成50周年という大きな節目の年を迎えました。昭和45年4月に大阪府内で初の人権啓発団体として結成して以来、今日まで活動を続けることができたのは、推進委員の皆さまはじめ、本協議会を支えていただいた皆さま方のご尽力のたまものであることをまず初めに感謝申し上げます。

結成のきっかけとなったのは豊中市内の一市民が和歌山県田辺市に送った身元調査依頼の手紙でした。市民の間に、まだ根強い差別意識が残っているという事実に遭遇した故高島 光明さんは「私たちの豊中市を、一日も早く差別のない明るい町にしなければならぬ」と決意を固められ立ち上がられました。

当時の熱い思いは今日まで受け継がれ、部落問題に限らず、時代の変化とともに必要とされる新しい人権課題に向き合いながら取り組みを進めて参りました。そして今日、コロナ禍において新たな差別問題が拡がっていることを見聞きし、人権問題の難しさを痛感すると同時に、研修会等を通して正しい知識を身につけることの大切さを改めて実感しました。

記念誌の題名に過去の足跡の表明となる「あしあと」ではなく「あしおと」と名付けられてきたのは、人権協の活動が過去・現在・未来を通して、自他共の平等で自由な人間性擁護の願いを顕したものであります。

これからも、一人でも多くの市民の方の人権意識を高められることを願いながら、活動を進めていきたいと思っております。そして、ひとつひとつの点が繋がって人権の輪となり、更には大きな面となるように、豊中のまちがより一層、人権でひらかれたまちになることを祈っています。

終わりに、推進委員の皆さまをはじめ、豊中市、関係諸機関、諸団体の皆さまからの、本協議会へのご協力を今後ともお願いし、ご挨拶といたします。

---

---

## 祝 辞

---

---



豊中市長 長内 繁樹

豊中市人権教育推進委員協議会が結成50周年を迎えられたことを、心からお慶び申し上げます。

貴協議会は、昭和45年(1970年)の結成以来、半世紀にわたり、様々な人権問題に市民の立場で向き合い、人権尊重の輪を広げるべく地域に根ざした啓発活動に取り組まれました。

この間、人権擁護都市宣言にかかる署名活動を展開されるなど、中心的な役割を担われたほか、世界人権デー駅頭啓発活動の実施や機関紙「じんけん」の発行、人権教育をすすめる「市民の集い」の開催など、本市がめざす人権文化のまちづくりに多大なるご貢献を賜り、深く感謝いたします。

大阪府内初の人権啓発団体として発足し、これまでの様々な先駆的な活動によって、今日、市民の皆様の人権尊重の輪が確実に広まりました。人権のまち豊中の発展は、島田会長をはじめ、歴代会長や役員、委員の皆様のご長年にわたる地道なご努力の賜物であり、重ねて感謝申し上げますとともに、心から敬意を表します。

本市におきましては、平成11年(1999年)に「人権文化のまちづくりをすすめる条例」を制定するとともに、平成20年(2008年)には「人権行政基本方針」を定めるなど、人権行政の推進を図ってまいりました。しかしながら、一方では、今なお不当な差別や偏見は現存し、インターネット上での人権侵害、新型コロナウイルス感染者や医療従事者などへの誹謗中傷など、それらは世の中の変化とともに多様なものへと広がっております。これらの解決には、市民の皆様と力を合わせ、時代の流れに応じた取り組みを進めていくことが重要であります。

今後も、市民の一人ひとりの人権が尊重され、「人権文化が創造されたまち」の実現に向けた取り組みを進めてまいりますので、皆様には、一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、豊中市人権教育推進委員協議会が50周年を契機に更なる飛躍を遂げますよう、併せまして、皆様のご健勝とご多幸を祈念いたします。

---

---

## 祝 辞

---

---



豊中市議会  
議 長 宮 地 和 夫

豊中市人権教育推進協議会が結成50周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

貴協議会は、豊中市民が結婚差別に直接関与したとの指摘を受けたことを契機に、差別のない明るい町の実現を目標に掲げ、昭和45年(1970年)に結成されました。

以来、50年の長きにわたり人権尊重の輪を広げてこられました。

また、本市の「人権擁護都市宣言」や「人権文化のまちづくりを進める条例」の制定に寄与され、各種研修会や「人権教育をすすめる市民の集い」、「人権デ－駅頭広報活動」など市民ぐるみの活動に取り組みられ、市民の人権意識高揚にご貢献いただきましたこと、心から敬意を表し感謝を申し上げます。

さて、我が国では「部落差別の解消に関する法律」「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」など、差別を許さぬ法制度が整備されてきました。しかしながら、いじめや児童虐待をはじめ、同和問題、高齢者や障害者、性的マイノリティ等への人権侵害は後を絶たず、SNS等による差別事象や個人情報の侵害など、人権課題は多様化・深刻化しています。

また、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、感染者や医療従事者が誹謗中傷や不当な差別を受けるなど、各地で人権侵害の事例等が見受けられ、解決に向けた取組みが重要となっています。

市議会といたしましても、「人権文化のまちづくりをすすめる条例」の趣旨を踏まえ、あらゆる差別を許さず、一人ひとりの人権が尊重されるまちづくりの実現に向け、一層努力をしておりますので、今後ともご理解とお力添えを賜わりますようお願い申し上げます。

結びに、貴協議会が50周年を機に今後益々ご発展されますこと、また推進委員の皆様はじめ、関係者の皆様のご健勝とご活躍を祈念致しまして、お祝いの言葉とします。

---

---

## 祝 辞

---

---



豊中市教育委員会  
教 育 長 岩 元 義 継

豊中市人権教育推進委員協議会が記念すべき結成50周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

人権協は、差別のない明るいまちの実現に向け、昭和45年(1970年)に発足されました。半世紀の永きにわたり、さまざまな差別を解消するため市民主体の活動を展開され、人権尊重の輪を広げる啓発活動に積極的に取り組んでこられたことに改めて敬意を表しますとともに、心から感謝を申し上げます。人権協の提唱により昭和59年(1984年)に実現した「人権擁護都市宣言」は、今日まで本市の人権行政の礎となっています。

現在、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴い、感染者や医療従事者に対する差別や偏見などの新たな人権課題が生起しており、今の時代に対応した人権教育の必要性を改めて感じているところです。

人と人との関係が、対立や争いではなく、相互理解と尊重、対話により形成されることは、誰もが自分らしく、安心して生きることができるとする社会の実現につながるものです。そのためには、私たちの日々の生活、身近な人間関係におけるふるまいや実践が何より大切であると考えています。

本市は、多くの先人方のご尽力により、教育文化都市として市内外から高い評価を受け、今日まで発展してきましたが、人権尊重の精神に根ざした教育活動は本市教育の大きな柱です。それは、これから先、社会や時代がどんなに変化をしても、ゆるがないものであると私は考えています。

教育委員会といたしましても、全ての人の人権が尊重される社会の実現をめざし、引き続き人権協の皆さんと連携・協働しながら人権教育を推進してまいります。

学校と地域の連携協力のもと推進される人権協の活動が、この50周年を機に一層充実されますことを願っています。

終わりになりましたが、豊中市人権協の今後益々のご発展と推進委員の皆様のご健勝、さらなるご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



# 豊中市人権協はこうして発足しました

豊中市人権教育推進委員協議会は、40年前の昭和45年(1970年)に発足しました。

結成のきっかけとなったのは、昭和44年(1969年)、豊中市内の一市民が、和歌山県田辺市役所に対して、娘の結婚相手に関する身元調査依頼の手紙を出したことに始まります。これがいわゆる「田辺事件」と呼ばれるものです。

この手紙はいうまでもなく、露骨な部落差別の身元調査依頼であります。手紙の文面でも明らかなように、依頼主の中に「人種、新平民、部落」という差別観念が固定していたのです。

この内容をみた田辺市役所から、「信書の秘密は守らなければならないが、これを握りつぶすのは差別を温存する。」と豊中市に調査の申し入れがありました。

この申し入れを受けた豊中市は、事件の調査をすすめていくなかで、市民の間に、まだ根強い差別意識が残っていることが浮きぼりになりました。

この事実を眼のあたりにした豊中市中桜塚の故高畠光明氏は、「私たちの豊中市を、一日も早く差別のない明るい町にしなければならない。」との決意を固められ、そのためには、市民一人ひとりに人権教育を徹底させる必要があると考えられました。

(注)高畠光明氏は、原田神社の名誉宮司で、同和問題をはじめとして、青少年問題など、幅広い分野での識見が高く、数々の業績を残して、昭和57年(1982年)9月に逝去されました。

故高畠光明氏の提唱は、豊中市や豊中市教育委員会の協賛を得ることとなり、各地域や団体への呼びかけが重ねられ、賛同者の輪は次第に広がっていきました。

昭和45年(1970年)4月14日、人権教育をすすめようとする目的に賛同する委員41人によって、豊中市人権教育推進委員協議会が結成されました。

## 結 成 文

豊中では今までに、いくつかの差別事象が発生し、差別観念がいまだに広く根強く残っていることを認めざるを得ない。

現実に残るこの差別観念を解消するためには、従来行われてきた学校・社会教育だけでなく、市民全体の運動として正しい考え方を培うようにしなければならない。

すべての地域、あらゆる団体の連携と協力によって、この運動は成果をあげることができる。

そうした運動を進める母体として、本協議会が発足した。

(昭和45年(1970年)4月14日 結成会より)

この方はどんな人種の方でございますか。お尋ねしたいと思えます。現在は新平民等でございますが、昔は一部落がありましたそうですから、誠におそれ入りますがおしらべ願えないかと思ひましてお願い申しますが何でもなければ安心致しますので、恐縮でございますがよろしくお頼み申します。

和歌山県龍神村〇〇〇  
〇〇〇〇〇〇〇〇(氏名)  
年 月 日生

和歌山県田辺市の  
〇〇〇  
〇〇〇(氏名)  
年 月 日生

前略御免トヤゴ。  
早速でございますが極秘の事でお伺い致します。

〈手紙〉

昭和四四年(一九六九年)十月、和歌山県田辺市役所に、豊中市内の一市民から次の手紙が寄せられた。

結成宣言は、左のように述べています。

こうした個人参加による市民ぐるみの自主組織は、おそらく全国でもまれなものであったでしょう。

結成当時41人であった委員数は、現在では約3,900人の組織にまで発展し、今日に至っています。



# 豊中市人権擁護都市宣言と私たちの人権協

世界人権宣言35周年、「昭和58年(1983年)」にあたって、豊中市人権協が提唱し、市内15団体の協賛のもとに展開した「豊中市が『人権擁護都市』を宣言する」ことへの要望署名活動は、私たち人権協の結束をより強め、広く市民の人権意識の高まりを意義づける画期的な営みでありました。

この意識の高まりにもとづいて、豊中市の人権擁護都市宣言がなされたことは、誠に意義深いことであります。すべての市民が、改めて基本的人権の尊厳を認識し、差別のない明るく住みよい町の実現をめざして、いっそうの努力を積み重ねる必要があります。

私たち人権協は、豊中市人権擁護都市宣言の趣旨をふまえ、市をはじめ関係諸機関・諸団体とも協調し、委員自らの人権意識を高め、いっそう啓発活動を推進してまいります。

## 豊中市人権擁護都市宣言

私たちは、豊中市民として日本国憲法のもとにすべての人が人間として尊ばれ、基本的人権が侵されることのない明るい住みよい社会が一日も早く実現することを願っています。

しかし、今なお存在するさまざまな人権侵害の事実を見つめるとき、いまこそ市民一人ひとりが力を合わせ、すべての人々の人権が擁護される心豊かな豊中市を築いていかなければなりません。

私たちは自らの人権意識を高め、人権尊重の輪を広げるため、ここに豊中市を「人権擁護都市」とすることを宣言します。

昭和59年3月28日

豊 中 市



### 【三つの願い】

非核平和、人権擁護、青少年健全育成の三つの都市宣言のシンボルとして、阪急庄内駅に設置されているモニュメントです。



八万二千余名の  
人権擁護都市宣言要望署名を提出  
昭和五八年(一九八三年)十一月二十九日



# 豊中市人権協の組織と運営

豊中市人権協の発足当時から今日までの組織の移り変わりと運営について、その概要を述べることにします。

## 発足当時の組織

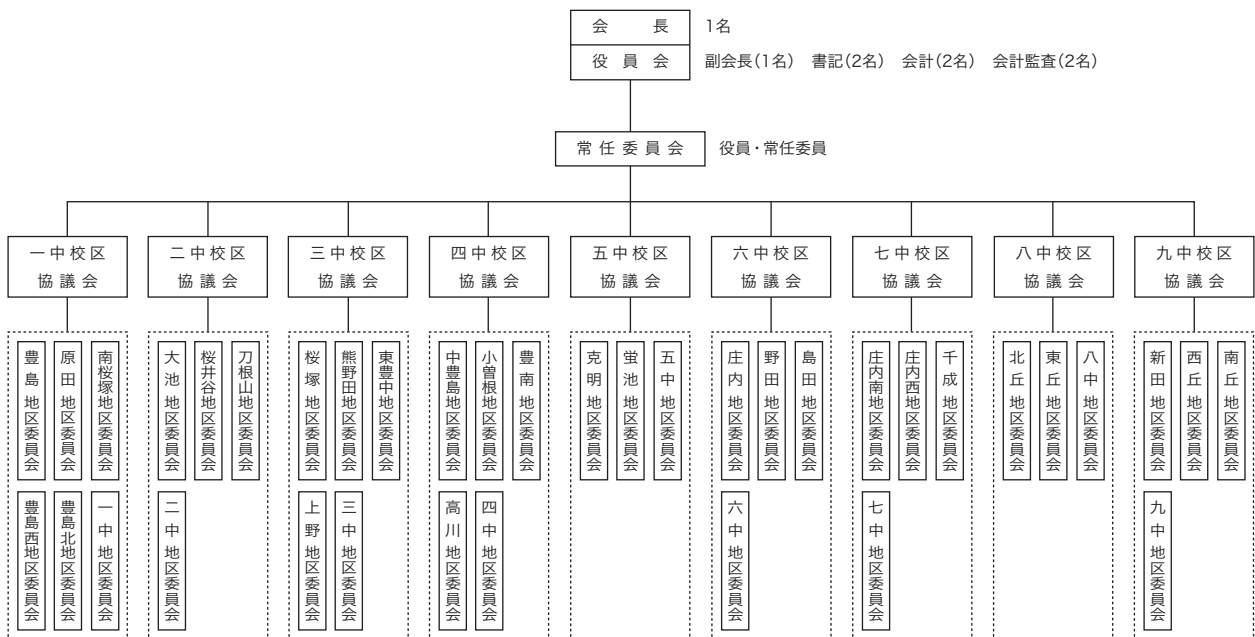
**昭和45年(1970年)**  
**4月14日**  
 学識経験者及び小・中学校区より1人ずつ選出された地域代表者合わせて41人の地域選出委員で構成。会長を選出。  
**5月14日**  
 副会長(1人)、常任委員(10人)選出。  
**6月25日**  
 各種団体より委員選出。  
 〔各PTA－39人、青年協議会－5人、婦人団体連絡協議会－10人、子ども会連合会－7人、保護司会－5人、公民分館連絡協議会－24人、解放同盟豊中支部－3人、民生委員協議会－16人〕  
 地域選出委員41人とあわせて、委員総数150人となる。

**昭和46年(1971年)**  
**3月27日**  
 役員組織の改正により、書記2名、会計2名、会計監査2名を置く。

以上のような経過のもとに、昭和46年度(1971年度)には、各中学校区ごとに中学校区協議会を組織し、昭和45年度(1970年度)選出の委員は、居住地により校区協議会委員として、各中学校区協議会に所属することになりました。

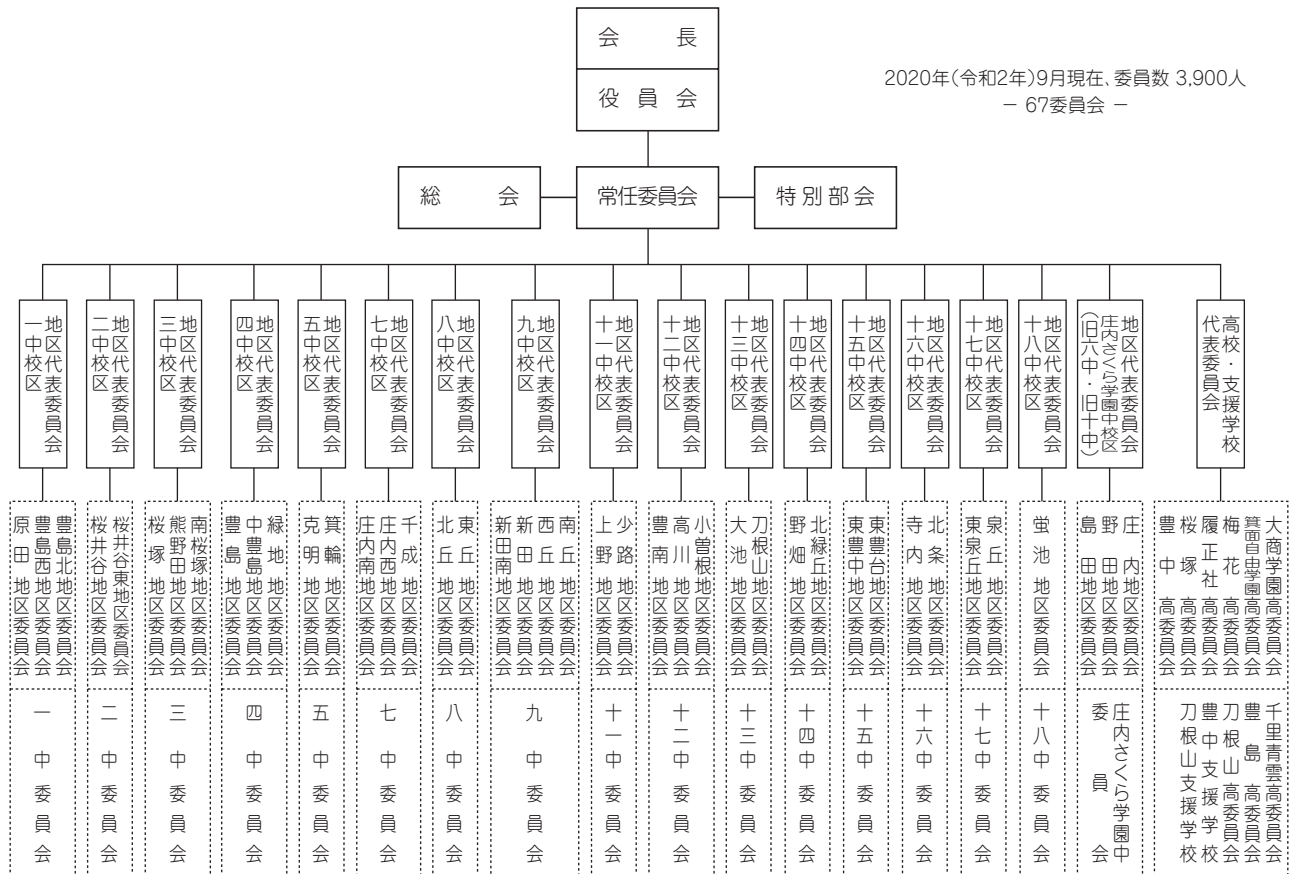
その後、組織の細分化をはかり、小・中学校単位に38の地区委員会を組織するとともに、委員の増員を行いました。昭和46年度(1971年度)の組織は、次のとおりです。

昭和46年度(1971年度) 豊中市人権教育推進委員協議会 組織図



## 現在の組織

## 2020年度(令和2年度) 豊中市人権教育推進委員協議会 組織図



## 組織・運営の特色

## ○居住地別の編成が基本に

組織の基盤は市内のすべての地域を活動の場とする各小学校校区を単位とした「地区委員会」で、その校区に住んでいる委員で構成されています。併せて、市立中学校 PTA を中心にした17の「中学委員会」及び市内の公私立高等学校 PTA を中心にした9の「高校委員会」で組織されています。

## ○すべての委員は個人の資格で参加

自らの申し出や、地区委員会、各種団体の推せんにもとづいて個人の資格で加入します。従って社会的立場や団体・組織等の所属にかかわらずありません。

## ○委員の生涯学習の場として

委員は人権意識を高める営みを継続して積み上げていくため、たえず意識の深化や変革を自らに問いかけし、自らを啓発していく生涯学習の場としてとらえています。

## ○学校教育との深いかかわり

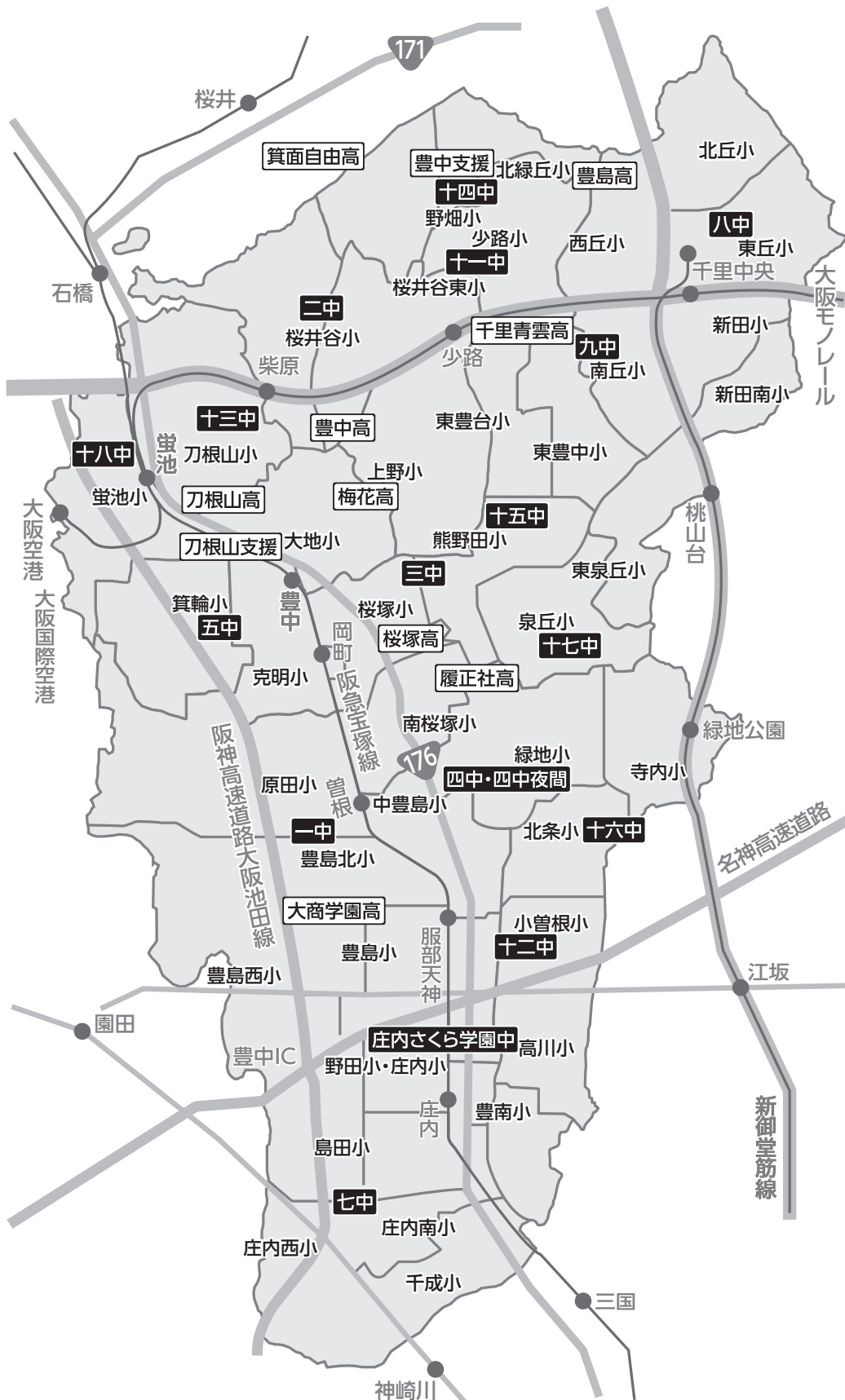
組織面では、市立小・中学校、市内の高等学校並びに支援学校の校長全員を参与に委嘱し、地域での啓発活動の指導、助言をお願いすると共に学校教育との連携をはかっています。

研修面では、学校教育に密接に関連した資料・教材の使用や会場として学校施設を多く利用しています。

上記のような組織運営により、人権啓発活動を推進してきました。



# 地区委員会 所在地






2020年度(令和2年度)現在








# 豊中市人権協のあゆみと社会の動き

	1970年(昭和45年)	1971年(昭和46年)	1972年(昭和47年)	1973年(昭和48年)	1974年(昭和49年)
人権協の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権協結成 4月(委員数41人)</li> <li>・会長に豊中市同和对策審議会会長の高島光明氏を選出</li> <li>・各種団体より委員選出 6月</li> <li>・田辺市視察研修を実施 9月</li> </ul>  <p>初代会長 高島光明氏 (故人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・門標を作成し全委員に送付 10月</li> <li>・富田林市視察研修を実施 11月</li> <li>・人権デー駅頭広報活動始まる 12月</li> <li>・中学校区単位の研修始まる</li> </ul>  <p>豊中市人権教育推進委員</p> <p>◀ 門標 昭和46年(1971年)制作</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区委員会単位の研修始まる 4月</li> <li>・高校部会を設置 4月</li> <li>・市民集会企画委員会を設置 4月</li> <li>・機関紙「じんけん」創刊号発行 9月</li> <li>・人権作品の募集始まる 10月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創立3周年記念「市民集会」講師：朝日新聞社編集局次長 平野一郎</li> <li>・小曾根門標差別事件おこる 8月</li> <li>・人権教育をすすめる「市民の集い」を実施 11月</li> </ul> <p>テーマ：「部落解放とわたしたち」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権作品集(第1集発行) 2月</li> <li>・創立5周年「市民の集い」を実施 11月</li> </ul>  <p>人権応募作品「たった一枚のピラだけど」の詩がシンボルソングに</p>
	内外の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊中市同和教育連絡協議会結成</li> <li>・啓発パンフレット“みんなであわせ”を全世帯に配布</li> <li>・「心身障害者対策基本法」施行</li> <li>・水俣病のチッソ責任追及</li> <li>・日航機「よど号」事件</li> <li>・日本万博開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「豊中市同和教育基本方針」制定(連絡協議会が改称)</li> <li>・高校卒業生の就職募集に統一用紙使用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊中市同和教育研究協議会発足</li> <li>・同和問題が中学校教科書に登場</li> <li>・沖縄復帰</li> <li>・日中国交回復</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊中市解放会館(現豊中人権まちづくりセンター)竣工</li> <li>・ベトナム和平協定</li> </ul>
委員数	150人	432人	764人	1,495人	1,739人
市民の集い	「市民の集い」における記念講演一覧			講師名	大阪市立大学教授 上田 一雄
				テーマ	「人間の尊厳と権利」
				参加者数	865人
					映画上映 「大地の夜明け」(第2部)
					484人

	1975年(昭和50年)	1976年(昭和51年)	1977年(昭和52年)	1978年(昭和53年)	1979年(昭和54年)
人権協の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八尾市同推協と交歓研修を実施 6月</li> <li>・同促研修会に役員参加 8月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貝塚市同和問題研究会との交歓研修を実施 1月</li> <li>・人権教育をすすめるための連絡協議会(役員と参与の会)を開催 5月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新委員研修を人権教育基礎講座として位置づける 7.8.2月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会で「市民啓発について」実践報告をする 7月</li> <li>・交歓研修を実施 10月</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市立小中学校校長若干名を参与に委嘱 5月</li> <li>・和歌山県御坊市人権擁護会と交歓研修を実施 10月</li> <li>・人権啓発推進大阪協議会に組織加入 12月</li> </ul>  <p>国際児童年シンボルマーク</p>
内外の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最高裁、興信所の身元調査は憲法違反と判例示す</li> <li>・「部落地名総鑑」差別事件おこる</li> <li>・英「性差別禁止法」と「男・女同一賃金法」を施行</li> <li>・国際婦人年(メキシコ宣言採択)</li> </ul>  <p>国際婦人年シンボルマーク</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蚩池解放会館竣工</li> <li>・「戸籍法」一部改正、公開制限される</li> <li>・「国際人権規約」が発効</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市が「国際人権規約批准促進についての要望」を決意</li> <li>・婦人問題国内行動計画 閣議報告出る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊中市同和問題企業連絡会(豊中同企連)発足</li> <li>・「豊中市障害児教育基本方針」を制定</li> <li>・「同和对策事業特別措置法」の一部改正と付帯決議</li> <li>・人権擁護委員制度30周年を迎える</li> <li>・日本が国際連合で「国際人権規約」に署名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「豊中市同和对策審議会答申」ができる</li> <li>・「国際人権規約」が国会で批准</li> <li>・人権啓発推進大阪協議会結成</li> <li>・国連第34回総会で「婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃条約」採択</li> <li>・国際児童年</li> </ul>
委員数	1,962人	2,170人	2,385人	2,618人	2,845人
市民の集い	埼玉県立児玉高校 小林 初枝 「部落問題と女性」	女性史研究家 もろさわようこ 「おんなのあゆみと差別の歴史」	京都精華短大助教授 堀口 牧子 「何が差別を支えているか」	作家 安岡章太郎 「ルーツと日本人」	作家 水上 勉 「人間について」
	1,204人	1,411人	1,633人	2,165人	2,270人

	1980年(昭和55年)	1981年(昭和56年)	1982年(昭和57年)	1983年(昭和58年)	1984年(昭和59年)
人権協の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地名総監を糾す」(関西テレビ)制作に人権協が協力 6月～</li> <li>・「同和对策事業特別措置法」の強化改正に向けての署名活動を展開 12月～</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊中市・豊中同企連との合同で駅頭広報活動を展開 12月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和歌山県粉河町(現紀の川市)の人権教育活動を視察 4月</li> <li>・身元調査お断り運動研究部会設置 5月</li> <li>・「明子の愛、そして」上映運動展開 5月～</li> <li>・高島光明初代会長逝去 9月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村田佐市氏会長に就任 5月</li> <li>・「豊中市を人権擁護宣言都市にする要望署名活動」を展開(最終署名数82,113人) 10月～</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市立小・中学校長全員を参与に委嘱(規程を一部改正) 5月</li> <li>・調査研究部会を設置(身元調査お断り運動研究部会を改称) 5月</li> </ul>
					
内外の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市が「同和对策事業特別措置法期限延長に伴う付帯決議の即時具体化に関する要望」を決議</li> <li>・「豊中市在日外国人教育基本方針」を制定</li> <li>・国際人権シンポジウム開かれる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊中企業内同和問題研修推進員連絡協議会結成</li> <li>・同和問題に取り組む宗教団体連帯会結成</li> <li>・「同和問題に関する啓発事業について」(府) 答申</li> <li>・日本が国際連合で「国際人権規約」に署名</li> <li>・国際障害者年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域改善対策特別措置法」制定</li> <li>・反差別国際会議開催</li> <li>・ポーランド非常事態宣言</li> <li>・世界人権宣言35周年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市が「非核平和都市」を宣言</li> <li>・部落差別を理由に婚約破棄は違法との判決(大阪地裁)</li> <li>・地域改善対策協議会(地対協)から意見書</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市が「人権擁護都市」を宣言</li> <li>・市が「人権擁護都市宣言」記念集会を開催</li> <li>・大韓航空機撃墜される</li> </ul>
	 国際障害者 シンボルマーク	 世界人権宣言35周年 シンボルマーク	 豊中市人権擁護都市 宣言シンボルマーク		
委員数	3,191人	3,421人	3,704人	4,084人	4,372人
市民の集い	俳優 小松 方正	福岡県同和教会長 林 力	俳優 三国連太郎	劇作家 長田 純	俳優 植木 等
	「私は、いかに生きるか」	「今、教育について考える」	「日本人の考え」	「ほんものに生きる」	「人生春夏秋冬」 父、徹誠を語る
	2,026人	1,984人	2,302人	1,952人	2,182人





	1985年(昭和60年)	1986年(昭和61年)	1987年(昭和62年)	1988年(昭和63年)	1989年(平成元年)
人権協の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・篠山町(現丹波篠山市)との交歓研修を実施 1月(篠山町にて)</li> <li>・市内高等学校、養護学校(現支援学校)校長を参与に委嘱 5月</li> <li>・啓発研修部会を設置 5月</li> <li>・行事企画部会を設置 5月</li> <li>・「部落解放基本法」制定要求署名活動を展開 9月～</li> <li>・差別戒名現地調査に参加 10月</li> <li>・奈良県橿原市洞部落跡見学 10月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権協ハンドブックの作成</li> <li>・市制施行50周年記念事業として「市民の集い」において民族芸能『春駒』を上演</li> <li>・故高島光明氏を偲ぶ会を行う</li> <li>・八尾市現地研修会</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人権に関する作品」を毎年募集することになる</li> <li>・十八中校区を組織</li> <li>・高島光典氏会長に就任</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪市住吉区現地研修会</li> <li>・組織検討部会の設置</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10年以上在籍する推進委員に対し委員継続の意志を確認</li> <li>・星野清観氏会長に就任</li> <li>・基礎講座の拡充(会場・回数増)</li> </ul>
内外の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市が「青少年健全育成都市」を宣言</li> <li>・「大阪府部落差別事象に係る調査等の規制等に関する条例」が施行</li> <li>・国が「女子差別撤廃条約」を批准</li> <li>・「戸籍法」「国籍法」の一部改正</li> <li>・国際青年年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市制施行50周年</li> <li>・豊中市同和問題企業連絡会が発展的解消</li> <li>・豊中市同和保育基本方針</li> <li>・男女雇用機会均等法施行</li> <li>・大阪府同和教育基本計画</li> <li>・地対協「今後における地域改善対策について」意見具申</li> <li>・国際平和年</li> <li>・ソ連チェルノブイリ原発事故発生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・憲法施行40周年</li> <li>・地対財特法施行</li> <li>・家のない人びとのための国際居住年</li> </ul>  <p>15周年記念誌</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊中市人権擁護都市宣言5周年</li> <li>・世界人権宣言40周年</li> <li>・第24回ソウルオリンピック開催</li> </ul>  <p>世界人権宣言40周年シンボルマーク</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アパルトヘイト否!! 国際美術展を豊中市民会館で開催</li> <li>・国連で「子どもの権利条約」が採択</li> <li>・国連人権規約批准10年目</li> <li>・府同対審答申20周年</li> <li>・中国・天安門事件</li> </ul>
委員数	4,738人	4,980人	5,338人	5,578人	4,753人
市民の集い	随筆家 岡部伊都子	作家 瀬戸内寂聴	俳優 入川 保則	精薄者施設茗荷会代表 田村 一二	俳優 米倉斉加年
	「優しい出あい」	「人間の自由」	「映画と人権」 —画像を通して考える—	「いのち見つめて」	「私のメルヘン」
	1,852人	2,348人	1,949人	1,842人	1,922人

	1990年(平成2年)	1991年(平成3年)	1992年(平成4年)	1993年(平成5年)	1994年(平成6年)
人権協の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権協結成20周年研修会 一人芝居「火の玉のはなし」上演</li> <li>・「市民の集い」にて傘踊り『燃える舞い』を上演</li> <li>・豊中市内障害者施設見学(みのり園、みずほ園、あおぞら園、あゆみ園)</li> </ul>   <p>20周年記念誌</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部落解放基本法制定に関する署名活動</li> <li>・“子どもの人権”に関わる学習会</li> <li>・田原翠成氏会長に就任</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族ぐるみの人権啓発活動の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VTR「あなたへの問いかけ」製作</li> <li>・市民に啓発チラシを配布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教宣シリーズ5「豊中の差別事象Ⅲ」発行</li> </ul>
内外の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国連で「子どもの権利条約」が成立</li> <li>・国際識字年</li> <li>・同対審答申25周年</li> <li>・東西ドイツ統一される</li> <li>・イラク、クウェートに侵攻</li> <li>・国際花と緑の博覧会開催(鶴見公園)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊中市同和対策審議会答申</li> <li>・在日韓国人法的地位待遇に関する日韓覚書締結</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地对財特法5か年延長</li> <li>・豊中市人権啓発基本方針策定</li> <li>・国連、障害者の10年最終年</li> </ul>  <p>平成5年基礎講座・受講風景</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の先住民の国際年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際家族年</li> <li>・子どもの権利条約発効</li> <li>・国連「障害者の10年」最終年</li> </ul>
委員数	4,951人	5,075人	5,284人	5,409人	5,422人
市民の集い	作家 佐木 隆三	奈良県大淀町民生部長 平岡 恭正	歌手 新谷のり子	歌手 さとう宗幸	アムネスティ・インターナショナル 日本支部長 イーデス・ハンソン
	「虚しい祭り」 —傍聴席から見た刑事裁判—	自らの胸に手をあてて	私の出逢った唄たち	ふれあいの時を求めて	「私の生き方」 アムネスティの活動をととして
	1,784人	1,773人	1,772人	1,984人	1,794人



	1995年(平成7年)	1996年(平成8年)	1997年(平成9年)	1998年(平成10年)	1999年(平成11年)
人権協の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子どもの権利条約」を学習し、冊子「すべての子どもに人権を」を作成</li> </ul>  <p>25周年記念誌</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民に人権啓発チラシを配布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人権に関する条例制定請願署名活動」を展開</li> </ul>	 <p>平成10年(1998年)年11月 世界人権キャンペーン</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「市民の集い」で、カレンダー『人権文化のまちづくりとよなか』を作成配布</li> </ul> 
内外の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国連寛容年</li> <li>・「人権教育のための国連10年」始まる</li> <li>・阪神淡路大震災</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地对協「同和問題の早期解決に向けた今後の方策の基本的在り方について」(意見具申)</li> <li>・貧困根絶のための国際年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権擁護施策推進法施行</li> <li>・豊中市「人権教育のための国連10年推進本部」を設置</li> <li>・政府の推進本部「人権教育のための国連10年」に関する国内行動計画決定</li> <li>・日本国憲法施行50周年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「豊中市における今後の同和行政のあり方について」(答申)</li> <li>・大阪府人権尊重の社会づくり条例施行</li> <li>・豊中市同和行政基本方針策定</li> <li>・「人権に関する世界宣言」採択50周年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊中市「人権文化のまちづくりをすすめる条例」施行 4月</li> <li>・国際高齢者年</li> <li>・改正男女雇用機会均等法施行</li> </ul>
委員数	5,464人	5,519人	5,491人	5,332人	5,218人
市民の集い	作家 高 史明	俳優 浅利香津代	医師 森津 純子	映画監督 仙頭 直美	作家 立松 和平
	「人権」 生命のかがやき	「語りつぐところ」	「いのちの奇跡を みつめて」	「ひと・絆・いきざま」	「人に会う」
	1,750人	1,722人	1,695人	1,775人	1,694人

	2000年(平成12年)	2001年(平成13年)	2002年(平成14年)	2003年(平成15年)	2004年(平成16年)
人権協の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊中市人権協結成30周年</li> <li>30周年記念誌の発行</li> </ul>  <p>30周年記念誌</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>島田忠雄氏会長に就任</li> <li>組織検討委員会設置(2001~2003年)</li> </ul> 		<ul style="list-style-type: none"> <li>「大阪府草の根人権活動奨励賞」受賞</li> </ul> 	
内外の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>平和の文化のための国際年</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア国際年</li> <li>人種主義、人種差別排外主義、不寛容に反対する動員の国際年</li> <li>「世界の子どもたちのための平和の文化と非暴力のための10年」始まる</li> <li>大阪教育大学附属池田小学校児童殺傷事件</li> <li>アメリカ同時多発テロ事件</li> <li>法務省が「子どもの人権110番」を設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際エコツアーリズム年</li> <li>FIFAワールドカップ日韓共同開催</li> <li>日本人拉致被害者5人 北朝鮮から24年ぶり帰国</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「国連識字の10年ーすべての人びとに教育をー」始まる</li> <li>アメリカ・イラク戦争始まる</li> </ul> <p>3月</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>奴隷制との闘争とその廃止を記念する国際年</li> </ul>
委員数	5,086人	5,027人	4,707人	4,650人	4,545人
市民の集い	夜間中学卒業生 高野 雅夫	邑久光明園医師 青木 美憲	テノール歌手 新垣 勉	歌手 渡辺千賀子・竹内直紀・伊藤正殿護弘美・松本城洲夫	歌手 バイマーヤンジン
	「出逢いは歴史を創る」	ハンセン病 「隔離政策の過ち」	かけがえない自分を大切に生きる 「オンリーワンの人生を大切に」	～うたは心のメッセージ～	～天に一番近い大地 チベットからのお話と歌～
	1,576人	1,562人	1,428人	1,492人	1,258人

	2005年(平成17年)	2006年(平成18年)	2007年(平成19年)	2008年(平成20年)	2009年(平成21年)
人権協の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の集いで集めた協力金をはじめて自主財源へ加算する</li> <li>「大阪ヒューマンフェスタ2005 INとよなか」に人権協結成35周年記念として参画</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局に事務局長、事務局次長をおく</li> <li>総会交流会</li> <li>人権協の支会会計が事業別予算になる</li> <li>新田南地区委員会設置</li> </ul> 	 <p>市民の集い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「人権協のあゆみ」第38集よりA4サイズになる</li> </ul>  <p>人権協のあゆみ 第38集</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>名誉委員をおく</li> <li>東豊中高委員会と少路高委員会を統合し千里青雲高委員会となる</li> </ul>
内外の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>「国連持続可能な開発のための教育の10年」始まる</li> <li>「命のための水」国際の10年始まる</li> <li>JR福知山線脱線事故 4月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インドネシア ジャワ島周辺で大地震 死者5,500人以上 5月</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>養護学校を支援学校に改名</li> <li>世界人権宣言60周年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「千里青雲高校」誕生</li> <li>世界保健機関(WHO)は新型インフルエンザ世界的大流行(パンデミック)を宣言 6月</li> </ul>
委員数	4,454人	4,399人	4,324人	4,186人	4,191人
市民の集い	歌手 李 政美	芝原生活文化研究所代表 辻本一英・中内正子・南公代	歌手 紙ふうせん	歌手 叶 れい子	白井 のり子
	「ありがとう いのち」	ばあやんからのメッセージ～「箱廻し」を復活して～	ふれあいトーク&ライブ	通天閣から愛を込めて～命の尊さと小さな幸せを感じられる心～	「典子は、今」あれから27年 今を生きる
	1,216人	1,253人	1,455人	1,205人	1,210人

	2010年(平成22年)	2011年(平成23年)	2012年(平成24年)	2013年(平成25年)
人権協の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊中市人権協結成40周年</li> <li>40周年記念誌の発行</li> <li>40周年記念誌特別部会設置</li> </ul>  <p>互礼会 鏡開き</p>  <p>40周年記念誌</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総会</li> <li>新推進委員基礎講座</li> <li>推進委員研修講座</li> <li>駅頭啓発活動</li> <li>機関紙『じんけん』発行</li> <li>人権カレンダー作成配布</li> </ul>  <p>市民の集い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総会</li> <li>新推進委員基礎講座</li> <li>推進委員研修講座</li> <li>駅頭啓発活動</li> <li>機関紙『じんけん』発行</li> <li>人権作品の募集</li> <li>人権カレンダー作成配布</li> </ul>  <p>市民の集い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総会</li> <li>新推進委員基礎講座</li> <li>推進委員研修講座</li> <li>駅頭啓発活動</li> <li>機関紙『じんけん』発行</li> <li>人権カレンダー作成配布</li> </ul>  <p>市民の集い</p>
内外の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>「世界の子どものための平和の文化と非暴力のための国際の10年」最終年</li> <li>メキシコ湾原油流失事故発生 4月</li> <li>チリ・サンホセ鉱山落盤事故 作業員33名全員救出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災M9.0 福島第1原発事故 3月</li> <li>人権問題に関する府民意識調査 3月</li> <li>第16回人権理事会「人権教育及び研修に関する国連宣言」採択 4月</li> <li>「人権教育・啓発に関する基本計画」の一部変更 4月</li> <li>国際テロ組織アルカイダ率いるウサマ・ビン・ラディン氏の殺害 5月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊中市平和教育推進のための基本方針制定 3月</li> <li>原発稼働一時ゼロ 5月</li> <li>「東京スカイツリー」オープン 5月</li> <li>いじめ防止対策推進法施行 6月</li> <li>豊中市人権教育推進プラン一部改訂 7月</li> <li>外国人登録法の廃止 7月</li> <li>障害者虐待防止法の施行 9月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者総合支援法施行 4月</li> <li>豊中市子ども健やか育み条例制定 4月</li> <li>障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の制定 6月</li> <li>いじめ防止対策推進法施行 9月</li> <li>豊中市人権についての市民意識調査の実施 9月</li> <li>2020年東京オリンピック、パラリンピック開催決定 9月</li> </ul>
委員数	4,135人	4,102人	4,106人	4,073人
市民の集い	歌手 cocoon(コクーン)	元内閣官房長官 野中 広務	中部大学教授 武田 邦彦	シンガーソングライター 沢 知恵
	家族の絆・命の尊さ	昭和世代からの遺言	環境と人権	かかわらなければ
	1,081人	533人	493人	414人

	2014年(平成26年)	2015年(平成28年)	2016年(平成29年)	2017年(平成29年)
人権協の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総会</li> <li>・新推進委員基礎講座</li> <li>・推進委員研修講座</li> <li>・駅頭啓発活動</li> <li>・機関紙『じんけん』発行</li> <li>・人権作品の募集</li> <li>・人権カレンダー作成配布</li> </ul>  <p>市民の集い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総会</li> <li>・新推進委員基礎講座</li> <li>・推進委員研修講座</li> <li>・駅頭啓発活動</li> <li>・機関紙『じんけん』発行</li> <li>・人権カレンダー作成配布</li> </ul>  <p>市民の集い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総会</li> <li>・新推進委員基礎講座</li> <li>・推進委員研修講座</li> <li>・駅頭啓発活動</li> <li>・機関紙『じんけん』発行</li> <li>・人権作品の募集</li> <li>・人権カレンダー作成配布</li> </ul>  <p>市民の集い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総会</li> <li>・新推進委員基礎講座</li> <li>・推進委員研修講座</li> <li>・駅頭啓発活動</li> <li>・機関紙『じんけん』発行</li> <li>・人権カレンダー作成配布</li> </ul>  <p>市民の集い</p>
内外の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者権利条約批准 1月</li> <li>・横田めぐみさん両親とお孫さんとモンゴルにて面会 3月</li> <li>・子どもの貧困対策法施行 9月</li> <li>・ノーベル平和賞にパキスタンの教育活動家マララさん 12月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活困窮者自立支援法施行2月</li> <li>・豊中市障害児保育基本方針一部改訂 4月</li> <li>・大阪人権博物館立ち退き訴訟始まる(大阪市が建物撤去・土地の明け渡しを求める) 7月</li> <li>・同和対策審議会答申50周年 8月</li> <li>・国連総会「SDGs(持続可能な開発目標)」採択 9月</li> <li>・大阪府人権問題に関する府民意識調査の実施 10月</li> <li>・日韓国交正常化50周年 12月</li> <li>・豊中市人権まちづくりをすすめるための条例更新 12月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊中市障害児教育基本方針一部改訂 4月</li> <li>・障害者差別解消法施行<sup>※1</sup> 4月</li> <li>・アメリカ大統領バラク・オバマ氏大統領として初めて広島平和公園を訪問 5月</li> <li>・ヘイトスピーチ解消法施行<sup>※2</sup> 6月</li> <li>・改正公職選挙法成立(選挙権年齢18歳以上に) 6月</li> <li>・相模原障害者施設殺傷事件 7月</li> <li>・部落差別解消推進法施行<sup>※3</sup> 12月</li> </ul> <p>※1 障害を理由とする差別的解消の推進に関する法律          ※2 本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律          ※3 部落差別の解消の推進に関する法律</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国連 核禁止条約採択 NGO ICANがノーベル平和賞 7月</li> <li>・電通に有罪、働き方改革へ機運 10月</li> </ul>
委員数	4,033人	4,029人	4,006人	3,915人
市民の集い	イタリア生活文化交流協会 代表 松本 城洲夫 演奏 アンサンブル・サビーナ ジンケンコンサート 音楽とヒューマン・ライツ 438人	ガンバ大阪 U-13担当 アカデミーコーチ 宮本 恒靖 JARTA代表 中野 崇 未来につなげる確かなパス ～スポーツを通して考える人権～ 451人	解放社会学研究所 所長 江嶋 修作 「ひと」らしく生きるために ～差別やいじめの取組みを 考える～ 407人	十八代目 太鼓屋六右衛門 杉本 大士 演奏 太鼓集団 疾風(KAZE) 太鼓と命 385人



	2018年(平成30年)	2019年(平成31年/令和元)	2020年(令和2年)
人権協の動き	<p>浅利市長と懇談 5月</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・総会</li> <li>・新推進委員基礎講座</li> <li>・推進委員研修講座</li> <li>・駅頭啓発活動</li> <li>・機関紙『じんけん』発行</li> <li>・人権作品の募集</li> <li>・人権カレンダー作成配布</li> </ul>  <p>市民の集い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総会</li> <li>・新推進委員基礎講座</li> <li>・推進委員研修講座</li> <li>・駅頭啓発活動</li> <li>・機関紙『じんけん』発行</li> <li>・人権カレンダー作成配布</li> </ul>  <p>市民の集い</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊中市人権協結成50周年</li> <li>・第六中委員会・第十中委員会が統合し、庄内さくら学園中委員会となる 4月</li> <li>・50周年記念事業「市民の集い」を実施 11月</li> </ul>  <p>市民の集い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・50周年記念誌の発行</li> <li>・新推進委員基礎講座</li> <li>・機関紙『じんけん』発行</li> <li>・人権カレンダー作成配布</li> </ul>
内外の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同和問題解決推進協議会が「豊中市における同和問題の解決を図るための具体的な教育・啓発の進め方について」を市に答申 3月</li> <li>・大阪北部地震M6.1 6月</li> <li>・西日本豪雨 7月</li> <li>・台風21号横断、豊中市全域被害 9月</li> <li>・世界人権宣言70周年 12月10日(1948年12月国連採択)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊中市人権についての市民意識調査の実施 7月</li> <li>・改正大阪府人権尊重の社会づくり条例施行 10月</li> <li>・大阪府性的指向及び性自認の多様性に関する府民の理解の推進に関する条例施行 10月</li> <li>・大阪府人権又は民族を理由とする不当な差別的言動の解消の推進に関する条例制定施行 11月</li> <li>・子どもの権利条約採択30年、日本批准25年(1989年国連採択) 11月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊中市人権教育推進プラン一部改訂 3月</li> <li>・豊中市立「人権まちづくりセンター」が豊中市立「人権平和センター」になる 4月</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大をうけ緊急事態宣言 4月</li> <li>・庄内さくら学園中学校創立 4月</li> <li>・リバティおおさか休館撤去 5月</li> </ul>
委員数	3,872人	3,856人	3,814人
市民の集い	一般社団法人清水健基金 代表理事 清水 健	佛教大学副学長 原 清治	From SING LIKE TALKING 佐藤 竹善 ラジオ DJ 池田 みな子
	大切な人の「想い」とともに ～112日間のママ～	「ネット社会と子どもの人権」 ～子どもたちに忍び寄る SNSの光と影～	Human Rights Talking ～音楽@人権～
	471人	392人	347人



# 豊中市人権協全体活動のとりくみ

機関紙「じんけん」には情報があふれています。表紙を飾る児童のポスター、巻頭言には結婚差別についての調査結果から、部落差別が過去の問題でないことに触れ、差別をなくす学びの大切さについて論及されています。

現地研修は実に多彩です。大阪地方裁判所、防災センター、生野コリアタウン、アンネフランク記念館、京都ライトハウス、大阪水上隣保館等、テーマは広く人権から防災、児童虐待等、市内にある「翼」児童養護施設にも研修の場を広めています。

11月「人権教育をすすめる市民の集い」。記念講演からネット社会に潜むさまざまな問題について語られました。子どもたちが夢中となるネットのバトル・ロワイヤル型対戦ゲーム、ネットといじめ、大学生が対面をさせて食事をする「ぼっち席」、若者の実態に驚かされました。良好な人間関係が築けないネット依存症への警鐘です。

集いのメインは校区意見発表です。生徒と共にグリーン作戦から始まり、ふれあいフェスティバルや朝ごはんの会、PTAや地域ボランティアとの協働、子育てを支えるネットワークが根付きつつあります。機関紙「やさしさ宅配」が普及し、人権の輪が浸透しつつあることへの報告に感銘を受けました。温かい地域に支えられ、4月から庄内さくら学園が誇らしく開校しました。

12月は「世界人権デー 駅頭啓発活動」。市長や会長を先頭に、市内各駅で早朝よりポケットティッシュとミニカレンダーの配布を行っています。地道な活動ですが、世界各地でシンポジウム等の啓発活動が行われています。

2020年4月に人権協は発足50周年を迎えました。1970年に起きた田辺事件（結婚差別事件）を契機に結成された人権協は、その後「豊中市人権擁護都市宣言」を制定するなど大きく発展します。50年という歴史はたゆまない努力と人権意識の高揚が活動を支えています。

これからも機関紙「じんけん」が皆さまの校区に届くよう、まことに日に新たに、日々新たに、また日に新たに、共に歩んで行きましょう。

人権協の主な全体活動として、総会(5月)人権教育をすすめる市民の集い(11月)人権デー 駅頭啓発活動(12月)の他、人権作品募集、研修会(役員・常任委員・地区代表委員・推進委員)があります。

また、特別部会として機関紙編集部会、研修活動部会、広報活動部会の3部会がそれぞれの活動を展開しています。

## 2020年度（令和2年度）における活動をもとに紹介します

『総会』・・・新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止、書面総会にて決定

※基本として

- ・人権文化のまちづくりをすすめよう
- ・人権意識をより高めよう
- ・人権尊重の輪を広げよう

※重点行動として

- ・地区委員活動の語り合いから、人との出会いとつながりを広げよう
- ・歴史に学び現実を知ることから、人権意識をより高めよう
- ・世代を越えたつながりから、人権の輪を広げよう

### 市民への啓発事業

### 人権教育をすすめる市民の集い

一人でもより多くの市民の皆さんに人権尊重の輪を広げていこうという趣旨で、発足3年目から開催をしています。毎年、世界人権デーの1ヶ月前にあたる、11月に市民の皆さんや人権協の委員たちが一堂に集まって、各地区における推進委員の体験発表や、講師を招いての講演会から、人権意識への問いかけや、自己学習の場となっています。

「啓発実践活動として」

人権デー 駅頭啓発活動

当初、人権協と市婦協が共に、啓発実践活動としてビラくばりを実施していましたが、現在は豊中市をはじめとし諸団体の協賛のもとに、豊中市内11の駅頭などで、毎年12月10日に『今日は世界人権デーです』と声をかけながら、カレンダーとティッシュペーパーの手配りをしています。

「生涯学習の一環として」

各種研修会の実施

人権協推進委員は各種の研修会に参加し学習を行っています。特に「基礎講座」では初めて人権協の推進委員になった人を対象に、21世紀に生きる私たちの人権についての学習の場として研修を行っています。「推進委員研修講座」では推進委員の皆さんが参加しやすいように、3回の講座を3か所の会場で時間帯を考慮しながら実施しています。

『部 会』

〔研修活動部会〕

1982年(昭和57年)に設けられた「身元調査お断り運動」研究部会を出発点にして発足しました。その後、1984年度(昭和59年度)に調査研究部会、1985年度(昭和60年度)に啓発研究部会、1993年度(平成5年度)に研修活動部会と名称を変え今日に至っています。「基礎講座」・「役員、常任委員、地区代表委員研修会」等の研修企画、運営を中心に活動をしています。

〔機関紙編集部会〕

1972年(昭和47年)機関紙「じんけん」1号が発行され、これまでに160号を発行しました。人権協の目標である『基本的人権を守り、いっさいの差別を無くし民主主義思想を市民に普及徹底する』という基本的理念を確認しながら、広報活動をすすめてまいりました。機関紙「じんけん」は、委員の皆さんの人権啓発の一助となることを願って年2回発行しています。

〔広報活動部会〕

1985年(昭和60年)に行事企画部会として発足しました。当初、人権協創立15周年記念誌の作成のため設立されましたが、今日、人権作品の募集、作品展示、作品集の発行、人権カレンダー等の作成等を行っています。

〔50周年記念誌特別部会〕

今年は50周年記念誌特別部会として役員一同で記念誌発行に取り組みました。

# 各校区ではこのような活動をしています。

人権協ではこの50年間、地域の活動の推進に努めてまいりました。発足以来、地域が推進委の実践の場であり、啓発活動を進める基礎であるという精神を大切に、地域での各種団体との連携を保ちながら学習を進めています。

近年、現地研修会の取組みとしてコリアタウンフィールドワークや大阪地方裁判所の傍聴など、人権学習の研修を深めるためのいろいろな施設を訪れ幅広い活動がなされています。

17の中学校区と高校・支援学校の常任委員から、各地区の報告いただきました。

## 高校・支援学校委員会

- \* 【大商学園】 全学年では人権標語を募集。各学年ではSDGsと関連をもたせて「水」、「バリアフリー」、「フェアトレード」をテーマに展開。コロナ対策として、遠隔で各教室へ配信しました。
- \* 【箕面自由学園】 本校の人権教育は「生命の尊さ」を柱とし、人権ホームルームや人権委員会活動等を通して生徒自らが人権意識を持ち、自分の行動として実践できることを目指しています。
- \* 【梅花】 L G B T Qへの理解を深めるため当事者である卒業生が講師となり講演会を開催し、また、豊中市内の作業所、支援学校との交流の機会を設けています。各々の出会いから、お互いの差異や共通性について考える機会となっています。
- \* 【履正社】 生徒対象のいじめアンケート実施や全校一斉に人権HRを行い、いじめのない学校作りを推進しています。また教職員・保護者対象人権研修も実施し三位一体で人権意識を高めています。
- \* 【桜塚】 2学期の学年別人権講演会を核に事前学習や振り返りHRを組んで学習しています。講師は基本的に当事者の方に依頼し、全教室に設置されているプロジェクターを用いた視聴覚教材も利用しています。また、刀根山支援学校との交流も行っています。
- \* 【豊中】 学校教育全体を通じて、常に人権尊重の精神に徹しています。人権HRを計画的に行い、差別をしない、差別を許さない実践力を身につけた未来のグローバルリーダーの育成に努めています。
- \* 【豊島】 毎年秋にPTAと教職員の合同研修を行っています。今年は、豊中人権文化まちづくり協会のご協力を得て、人権平和センター豊中で講習を受けた後フィールドワークを実施して好評でした。
- \* 【刀根山】 学校方針に「安心できる学校生活の確立」と掲げている。これが確立されてこそ生徒はチャレンジをして成長する。教員のキーワードは“寄り添い”。地域とともに良き人権感覚を発信していきます。
- \* 【千里青雲】 共生推進教室設置校として、インクルーシブ教育を進めています。  
また、性的マイノリティに関する人権講演会を実施するなど計画的に人権HRに取り組んでいます。
- \* 【豊中支援】 日々の学習活動を通して、「自分を大切にする」「人を大切にする」人権意識を高める教育を実践しています。地域とのつながりを大切に、交流及び共同学習を通して「ともに学び、ともに育つ」教育を推進しています。
- \* 【刀根山支援】 近隣の学校との交流を通して、障がいのある児童生徒への理解を深めてもらうための活動を行っています。また、外部の方々を招いて、障がい児（者）の理解のための研修会の実施にも力を入れております。



## 一中校区

当校区は一中・豊島北・豊島西・原田の4つの地区委員会で構成されています。各地区委員会はPTAを中心に地域・各種団体の方々にも参加、協力をいただき、啓発DVDを使用した研修会や講習会を開催するなど、自分たちのできる啓発活動に取り組んでいます。

毎年取り組んでいる校区合同現地研修会の行き先として「生野コリアタウン」が人気です。昨年度のフィールドワークでは、在日3世のコーディネーターさんから、自身の体験を交え、その成り立ちや歴史・ゆかりの人物などの話を聞きました。途中「大阪朝鮮第4初級学校」の校門前より垣間見た子どもたちの姿は、我が子どもたちとなんらかわりのないと感じたことでしょうか。キムチ作り体験を通じてその文化のひとつに触れたことも貴重な体験でした。

人権協50周年にあたる本年(令和2年)は、世界中で猛威を振るう新型コロナウイルスの影響により多くの活動が制限されました。通年5月に開催される総会も中止となり、書面での報告となりました。校区の活動も各校のPTA活動自体が自粛されるなか、これまでどおりにはいかないもどかしさを感じました。そんななか参与でもある各校の校長先生のご協力をいただき地区ごとに、地区代表委員・校区常任委員・校区担当役員とで顔合わせし、今年度の活動について直接相談できたことは今後の活動においても幸いであったと思います。

最後に、コロナ禍の今、感染者や医療従事者など特定の人々への差別やいじめ「コロナ差別」と言われる新たな人権問題が生まれています。その背景は未知のウイルスに対する不安や恐れから自身を守りたいという過剰な反応と言われています。過去から学び、未来に不幸を残さないために、少しでも多くの方々に人権意識を持っていただけるように、これからも啓発活動を広めていきたいと思います。



一中校区常任委員 大谷 友紀

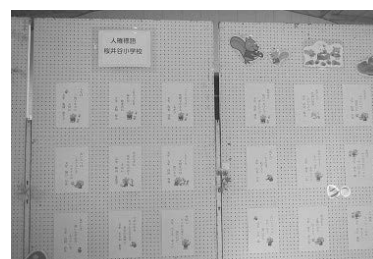
## 二中校区

『みつけよう 一人ひとりの いいところ』  
 『人の価値 はかるものさし いらないね』  
 『認め合う そこから始まる 仲間の輪』  
 『おばあちゃん この席どうぞ 言えたく』  
 『言われても 言ってもうれしい ありがとう』

これらは、桜井谷小・桜井谷東小・二中の児童や生徒が、人権をテーマに作った標語です。毎年11月に開催される公民分館文化祭で、子どもたちが作った人権標語の展示をしています。当校区で長年続けられているこの活動について紹介します。

学校の協力を得て人権標語を募集し、その中から各校50~70作品を展示します。展示する作品を選ぶため、標語審査会を行い、そこで、校長先生方と地区代表委員とで、子どもたちが綴った標語作品に目を通します。「人権」について考えるとき、人権協に携わっている私たちでさえ、どこかの誰かに起きていることとして捉えがちです。しかし、子どもたちが考えた標語からは、こうありたい、こうしよう、といった自身の言動や意志について書かれているものが多く、ハッとさせられます。皆が気持ちよく過ごすために、自分はどうしたらよいのか。あいさつ、言葉の使い方、SNSでの発信について、心掛けていることを表現したものや、自他の違いを知り、互いを認め合うといった、相互理解や多様性の受容についてなど。身近なことで人権を考え、まっすぐ表現された標語は、心に訴えるものがあります。標語審査会で選んだ作品は、校長先生方がカラー用紙に印刷してくださり、パネルに掲示し文化祭の来場者にお披露目します。「孫の標語がありました」と、嬉しそうに声をかけてくださる方もいらっしゃいました。

子どもたちの作品は、私たち読み手の胸を温かくさせ、多くの気づきを与えてくれます。人権標語作品の展示を通じて、子どもたちからたくさんのお話を教わりました。この活動に、そして子どもたちに感謝しています。



二中校区常任委員 林 久美子



## 三中校区

当校区は桜塚・南桜塚・熊野田・三中の地区委員会で構成されています。

各小・中学校の地区委員会において活動計画を立て学校・公民分館・健全育成会・各種団体の協力を得て

講演会を開催し人権啓発に取り組んでいます。

講演会では児童・保護者の方々に参加していただき、講師の方から体験談などのお話が聞け、児童にも分かりやすく人権について学習しています。

その中でも、校区合同現地研修会は好評で近年では「関西盲導犬センター」・「浪速少年院」・「交野女子学院」へ行き研修会を行いました。

個人ではなかなか見学、勉強できない人権の大切さを知ることができるたいへん貴重な機会となっています。

人権推進委員の活動を通して身近にあるいろいろな人権について気付くことができました。今後も身近な所から意識しながら活動を行っていかれたらと思います。



三中校区常任委員 駒澤 奈美

## 四中校区

四中校区は、豊島・中豊島・緑地・4中での4地区の委員会で構成されております。

各地区で、地域の方々やPTA主催で地区委員会を行っており、啓発DVD視聴や、講師の先生をお招きして、話をきいたり、意見交換をしたりとさまざまな工夫をしています。

毎年とても勉強になったなどのお声をいただき、地域の方とも意見交換ができ、交流の場としてもとても良い機会となっています。



年1回行われている校区合同現地研修会も、とても楽しみにされている方もたくさんいらっしゃいます。

前年度は「阿倍野防災センター」に行きました。震災と人権の関わりは身近なようでとても難しい問題です。東日本大震災では原発事故で避難して来られた方々が、ホテルで宿泊を拒否されたり、小学生のお子さんが避難先でイジメを受けたことなども報道されていました。

テレビ等で人権問題を見ることはあってもなかなか関わることはありませんでしたが、こうした現地研修会等をきっかけに人権の大切さを学んでいただければいいなと思いました。

近年ではコロナウイルスが流行し、コロナウイルスと前線で戦っている医療関係者たちが差別をされるような問題も出てきています。そういった差別は決して許される問題ではありません。大変なときだからこそ皆さんが手を取り合い乗り越えていき、人権の輪を拡げていけるように望んでいます。



四中校区常任委員 横田 裕子

## 五中校区



当校区は、克明小学校、箕輪小学校と原田小学校の一部の校区から構成されていますが、人権協推進委員としては、五中、克明小学校、箕輪小学校の三校を五中校区として活動しています。各地区委員会はPTA・地域・各種団体との連携が強く、協力を得て人権に関する講演会の共催や轟公園での夏まつりへの出店、子どもカーニバルなどの活動をさせていただいています。

校区としては、毎年校区合同現地研修に行かせていただいています。最近では、「大阪地方裁判所」「鶴橋コリアタウン」そして「児童養護施設 遥学園」に行きました。現地研修を通して、個人ではなかなか見学・勉強できない人権の大切さを知っていただき、地域に広げられたらと思っています。

また、2020年度(令和2年度)には豊中市人権推進委員協議会結成50周年にあたる「人権教育をすすめる市民の集い」において、「子どもたちの未来のために～児童養護施設「翼」とともに～」というテーマで、校区内にある豊中市で唯一の児童養護施設「翼」について当校区が意見発表させていただきました。

意見発表では、施設の職員の方や学校の先生からお聞きした内容をもとに、児童養護施設が豊中市に誘致された経緯や地域へのニーズ、施設の教育方針や施設と地域や学校との関わりについて述べました。また、施設ができる前は施設のことを「知らない」から違和感を感じていたのではないかと、「知ること」から理解を始めることが必要であり、「知ること」「広げること」「ともに歩むこと」を意識することは、人権問題の全般にも当てはまるのではないかと、という意見も述べました。

これからも、校区での活動を通して、いろいろなことを知って視野を広げ、人権に関する理解を深め、思い込みや偏見を持たず、一人ひとりの人権が尊重される幸せな社会になるように役立てられればと思います。

五中校区常任委員 村瀬 令子



## 七中校区

令和元年度の7中校区は合同現地研修会に於いて「ホロコーストの歴史とアンネの暮らし」をテーマに選びました。

秋も深まる中、推進委員15名、人権協役員1名、事務局1名、参与3名、常任委員1名の計21名で西宮にある聖イエス会アンネのバラ教会(アンネ・フランク資料館)へ出向きました。

小高い丘にある素敵な教会は癒しの空間で、牧師様による資料を見ながらの対話式の講演を受けました。とても分かりやすい語りかけでしたので、皆一同に真剣に聞き入っていたようでした。そこでしか聞けないアンネの父、オットー・フランク氏についての貴重なエピソード、平和についての学びを得ました。ホロコーストと言いますととても重たく感じてしまいましたが、アンネ・フランクの言葉には現代の私たちに元気を与えてくれるようなとても力強い言葉が数々残されています。

私がとても印象に残った言葉は、アンネの父オットー・フランク氏の「平和を願う人々は沢山いる、ですがもう一歩踏み込んで平和のために行動する人になってください」という言葉でした。少しのショックとともに少し気が楽になったような気がしました。どんなに小さなことからでも始めようと思えたからです。お話ののち、館内の貴重な資料や物品などを鑑賞し教会をあとにしました。

食事の前に簡単に皆さまにはアンケートをとらせてもらいました。そこにはそれぞれが感じた内容や言葉などを書いていただいたので、それをもとにまとめさせていただき、後日各校へ発送いたしました。

この研修で得た共感や体験をもとにこれからも皆さまとともに人権活動をご一緒にさせていただくことに感謝いたします。ありがとうございました。

七中校区常任委員 宮城 まさみ



## 八中校区

八中校区は、八中・北丘・東丘の3地区委員会で構成されており、小規模で緑豊かな千里ニュータウン内にあります。以前は急激に少子高齢化が進んでいることを危惧されていましたが、ニュータウンの団地がこの10年間で次々にマンションに建て替えられ、子育て世代が増え、子どもの姿も多く見られるようになり、にぎやかになっています。一方、多くは知り合いのいないまま転居するため、孤独な子育て世代を地域とつなげるために、子育て支援センター、園、学校などが大きな役割を果たしています。



年度始めに各校区の地区委員会にて、人権についてのビデオ研修を行います。中には涙混じりの感想をおっしゃる方も出てきたりと、感動のある意見交換の場となっています。

また各校区で人権学習講座を実施しています。昨年は、八中では「地球のステージ」北丘では「愛着障害」東丘では「思春期の子どもとの接し方」についての講座を行いました。東丘の講座では、隣の人と組みになり、目を合わさず話を聞くのと相槌をうちながら話を聞くワークを行うことで、普段子どもとしているコミュニケーションの質について考えました。身近な話題で皆熱意を持って参加しました。

合同の活動としては、現地研修、そして地域教育協議会が主催する千里ふれあいフェスタのコーナーを担当しています。近年実施した現地研修では、「盲導犬総合訓練センター」「大阪地方裁判所」「浪速少年院」へ行きました。人権について普段考えないようなことを深く考え、また校長先生や保護者同士が意見交換することで交流が深まる良い機会となっています。



千里ふれあいフェスタでは、子どもたちとのふれあいと健やかな育成を願って折り紙コーナーを担当し、保護者に人権のカレンダーや機関紙の配布を行い啓発活動をしました。

今年度はコロナの影響で残念ながら例年通りの活動はできませんでしたが、今後も地域と協力して人権活動を続けていきたいと思えます。

八中校区常任委員 富岡 恵子

## 九中校区

当地区は新田・新田南・西丘・南丘・九中の5地区から構成されており、委員はPTAから選出されています。

人数が多く、全体としての活動は難しいのですが、各地区委員会ではさまざまな活動が開催されています。

2019年度の活動を主にあげますと、

- 子どものSNSなどによるいじめをテーマにした講演会
- 認知症サポート養成講座
- 子育てのモヤモヤや登校しぶりなど、自由に意見交換会をする場所「じんけんカフェ」の開催
- 公民分館との共催でDVD「君がいるから」視聴
- 学校との共催でネットスマホの安全教室の開催
- スマホ、介護、人種などの人権をテーマとしたDVD「わっかカフェへようこそ」視聴
- 全体の現地研修として阿倍野防災センターの見学

このような活動を終えてのご感想より、少し紹介いたします。

子育てと大いに関わっていることを実感、人権という固いイメージが払拭された。大人になって、研修など、このような話を聴くことができ良かった。子どもに関わる親としてもっと人権協を身近に知ってもらえたらなあ。防災センターへ行き、我が家の防災グッズの見直しができる。講演会などを聴き、客観的に周囲を見渡せるようになった。SNSでのつながりが簡単になり、危険を身近に感じます。想像力が大切。人権は平等にあるということを再確認した。

皆さんたくさんを感じ、発見されたことをお話ししていただきました。

私自身もこちらでのご縁を通し、さまざまな経験をさせていただきました。今後も人権協の活動をたくさんの方に知ってもらえることを願っております。

九中校区常任委員 宮城 侑子





## 十一中校区

当校区は上野・少路・十一中の3地区委員会で構成されています。上野地区では毎年、上野公民分館との共催で、校長先生や教頭先生による人権学習講座を開催しています。最近ワークショップ形式であったり、小学校で子どもが学ぶ人権学習を体験させていただくものであったりと、参加型の興味深い内容となっています。少路地区では推進委員

ではない保護者の方やその子どもたちにも人権協の活動を知っていただきたいとの思いから、校長先生にもご協力いただき、毎年“人権だより”を発行しています。さらに十一中校区全体として、少路公民分館と共催で人権講座を開催したり、十一中PTA主催の講演会に参加させていただくなど、どの地区も地域との連携をとりながら人権啓発活動を進めています。



校区の合同現地研修会では毎年、各地区からたくさんの推進委員さん、そして参与の校長先生にもご参加いただいています。マイクロバスを利用しての研修会はちょっとした旅行気分を味わえ、その往復車中、昼食時などは、地域を問わず気軽に意見交換ができる貴重な時間となっています。



昨年度は視覚障害者総合福祉施設である京都ライトハウスへ行きました。施設見学、アイマスク・手引き体験のほか、施設の職員でもある当事者の方から見えにくさについての思いと生活の工夫についてのお話を伺いました。アイマスクの体験では、手引き者(誘導者)の誘導があつてなお、なかなか一步を踏み出せないという暗闇の恐怖を体感することで、当事者の方からのお話をより身近に感じ、それをより理解することが可能となったのではないかと思います。

最近、想像力が欠けると人権問題が起こってしまうという言葉を聞きました。自分の言葉や行動が相手にどう受け止められるかと想像力を働かせることは大切なことですが、それは時として独りよがりになってしまう可能性もあります。現地研修や地区活動を通して積み重ねられた体験や知識が、相手を正しく理解していくことにつながっていくことを願っています。

十一中校区常任委員 中谷 祐加

## 十二中校区

当校区は豊南・小曾根・高川・十二中の四つの地区委員会で構成されています。

各校区の頭文字から「HOT・ホット・ほっと」という、地域教育協議会、PTA、各種団体などの皆さんが中心となり、いろいろな取り組みをしています。

例えば、それぞれの小学校を子どもたちと一緒に出発し、十二中学校までの校区の道端や公園に落ちている空き缶やタバコの吸殻などのたくさんのゴミを拾い集める「クリーン大作戦」も行っています。

また、近年実施した合同の現地研修会では「盲導犬訓練センター」「大阪地方裁判所」「阿倍野防災センター」などへ行っています。

阿倍野防災センターは、「災害は必ずくる」「助かる力、助ける力」を学ぶ体験型防災学習施設です。

巨大スクリーンで見る災害や津波の映像はとても恐怖をおぼえます。地震発生直後から避難するまでの間にとるべき行動や、街に潜む危険などをとても丁寧に教えていただきました。起震装置で「震度7」の揺れを体験したときは、目の前にあるポールを力強く握っていないと立っていることも出来ないほどの強く怖い大きな揺れでした。



1995年の阪神・淡路大地震や2018年の大阪北部地震が思い起こされました。あの時は、地域の方が声を掛け合ってお互いの安否確認をしていました。これからも地域の方との交流を大切にしていきたいと思っています。

近い将来起こるとされている「南海トラフ巨大地震」などの大災害に備え、災害危険を認識することで自分に必要な知識や技術を体験して学ぶことができました。

もしもの時に備え、どのような行動をすればよいのか改めて考える良い機会になりました。

十二中校区常任委員 若山 なお子

## 十三中校区

十三中校区は、大池・刀根山・十三中地区で構成されています。

近年の三地区合同現地研修として、京都(平成29年度・耳塚、八坂神社～知恩院)、奈良(平成30年度・北山十八間戸、興福寺など)、大阪(令和元年度・上町台地をめぐる～朝鮮通信使と四天王寺～)に行きました。京都を現地ガイドの細田茂樹さんに、奈良・大阪を人権協事務局長西田益久さんにご案内いただき盛りだくさんの充実したフィールドワークとなりました。

また各地区委員会では研修会を行っており、令和元年度は「ネットトラブルから子供を守るために」というテーマで竹内義博さんに(刀根山地区)、「今の親と子どもは近すぎる～子どもを成長させる親の距離感～」というテーマで田中博史さんに(大池・十三地区合同)ご講演いただきました。どちらも校区の皆さまにも多数ご参加いただき盛況のうちに開催されました。



学校PTAの皆さまに人権協推進委員として活動していただいた感想として、「人権とは?知っているようで知らないぼやとしたイメージでしたが今の大阪や豊中のことを詳しく知ることができ、とても貴重な体験をさせていただきました。」「人権と聞くと初めは『差別やいじめなどネガティブで近いようで遠い話』というものでしたが、実際に活動してみても子育てや友人関係、価値観の相違などが取り上げられており、とても身近な問題ととらえるきっかけとなりました。」「親として自分の子どもの権利を守り、地域社会の一員として全ての子どもたちの権利を守る人になりたいと感じました。」などたくさんのご意見もいただくことができました。

今年度はコロナウイルスの関係で研修なども控えておりますが、地域の小中学校の保護者の皆さまとともに、これからも、地域とのつながりを深めながら、一步一步、人権を大切にするために自分に何ができるかを考えながら過ごしてまいりたいと思います。

十三中校区常任委員 北澤 裕美子

## 十四中校区

当校区は、豊中市最北端に位置し、北緑丘小学校、野畑小学校、第十四中学校で構成されています。北緑丘小学校は、「つながりの中で学び合う学校」を目指し、毎年公民館と合同で人権研修講座を開催しています。児童数は多くありませんが、PTA活動が活発で、地域を巻き込んだイベントも充実しています。野畑小学校も同じく、地域と一緒に人権研修講座を毎年開催し、「どんな子も安心して過ごせる居場所がある学校」を目指

す、地域や保護者に開かれた学校です。また、学校地域連携ステーションのはぐくみ隊は、学校支援コーディネーターの方々を中心に、地域諸団体や保護者と連携して、学校行事のさまざまな場面で子どもたちや先生のサポートをしています。両校とも、進んで人権協の活動に参加してくださる推進委員さんが多く、人権問題への意識の高い地域だと強く感じます。



そんな2校から子どもたちが進学する第十四中学校は、野畑小学校とともに、文部科学省の委託事業である「学校における医療的ケア実施体制構築事業」においてモデル校となっており、看護師の方が常駐し、人工呼吸器を使用している子どもたちは、保護者の付き添い無しで遠足や修学旅行にも参加します。「障害のある子もない子とともに学ぶ」というインクルーシブ教育は、何十年も前から豊中市の基本理念であり、同市で生まれ育った私は、子ども

のときからそのような環境が周りに当たり前にあったので、それが先進的な取り組みだったのだと最近になって知りました。社会で生きていくうえで何らかの生き辛さを抱えていること全てを「障害」と捉えるのなら、多くの人が障害を持っているとも言え、決して他人事ではありません。「つながりの中で」「安心して過ごせる」ことを目指すこの地域が、さまざまな個性がともに生きていくうえでの前向きな提案の発信地となり、インクルーシブ教育が全国的にスタンダードな価値観になっていってほしいと思います。

十四中校区常任委員 有澤 陽子



## 十五中校区

当校区は東豊中・東豊台・十五中の3地区委員会で構成され、各地区委員会では、PTAなど各種団体とともに委員会活動を行っています。各地区の代表は年代も性別もさまざまで、みなさんの経験や立場でいろいろな意見交換ができる場所となっています。

各地区ごとの活動は、啓発ビデオを視聴した後、研修会、意見交換を行うことが主体となっています。研修会には初めて参加される方がほとんどで、最初は緊張した面持ちでも、みなさんの感想や人権に対する考えなどさまざまな角度から意見交換しているうちに心も打ち解け、「いろいろお話が聞けて良かった」、「参加して良かった」、「また開催してほしい」と言って笑顔で帰られる姿は印象的でした。

地区代表委員会では、十五中学校長の鈴木先生に講演をしていただき、意見交換を行なっています。講演内容は多岐に渡り、いじめやジェンダーなど、子どもたちが直面する問題にも焦点を当てていただき大変勉強になりました。



合同現地研修として、近年は「阿倍野防災センター」「鶴橋コリアタウン」を訪れました。歴史や文化を学び触れることによって、他人事のように見過ごしてきた事実を知り、人権について改めて考えさせられる一日となりました。

『人権』と言う言葉は尊くて重たいと感じさせますが、学ぶことによって大变身近なものと感じ、たくさんの方が普段の生活の中で意識するだけで、さらに明るい住みよい社会に変えていけると信じています。これからも地域の方々と協力し、さまざまな活動を通してたくさんの方に人権尊重の輪が広がっていくことを願っています。



十五中校区常任委員 田中 あかね

## 十六中校区

当校区は十六中・寺内・北条の3つの地区委員会で構成されています。

寺内地区は転勤族の多い地区で他地域から転入された方は「人権教育」が活発に行われている豊中市に大変驚かれます。この地区では寺内小学校PTA主催で人権に関するビデオ視聴、意見交換会等の活動をしています。

北条地区では毎年10月に北条小学校PTAと公民分館と共催で「人権学習講演会」を開催し、多くの地域住民の皆さまにもご参加いただいています。

十六中では、ビデオ研修が行われ、虐待、DV、いじめ、ネット中傷などについて、活発な意見交換会が行われています。

本年度はコロナの影響で行えませんでした。昨年度は合同地区現地研修で「生野コリアンタウン」へ行きました。いつも買い物をするだけの街でしたが、フィールドワーク「多文化共生研修」に参加し、生野の史跡訪問、コリアンタウンの成り立ちを通じて、日本と朝鮮半島の歴史をNPO講師の方に案内していただきながら、学ぶことができました。キムチ作り体験もでき、「ちがい」を尊重して認め合いながら共生の大切さについて考えることができました。

当地区は活動の中心をPTAが行っています。

十六中校区は、常任・各学校から選出された地区代表委員とともに2年任期でおこなっています。

人権協への参加はPTAから始まりましたが、私はこの活動に関わることができ、よかったです。「人権活動の経験」は、今後も多くの方に継承され、広げていくべき活動です。身近なところからも、考えることができる啓発活動なのです。



十六校区常任委員 守屋 千裕

## 十七中校区

当校区は十七中・泉丘・東泉丘の3地区で構成されています。以前は十七中、泉丘の2地区でしたが、校区編成により令和元年度から東泉丘地区が加わり3地区となりました。



それぞれの地区では例年人権講座などの活動を行っています。十七中地区ではPTAや、であい・ふれあい協議会とともに人権講座を開催しています。泉丘地区では地区の文化祭(わっしょい文化祭)への人権ポスターの掲示や公民館に協賛して人権講座を開催しています。東泉丘地区では校長先生などを講師としてお招きして講演会を開催しています。このように地区ごとに講演会等を通してPTAや地域の方々とともに人権について考える機会としています。

また地区全体での合同の活動として現地研修会を開催しており、近年では交野女子学院(女子少年院)、社会福祉法人大阪水上隣保館(児童保護施設)の見学をさせていただきました。このどちらの施設も未成年の子どもたちを保護し育てていくためのもので、施設の方には丁寧な説明をいただき、子どもたちにとってとても大切な施設であることを実感しました。

講座や研修によっていろいろなことを知ることができました。人権にかかわる問題は年々変化してきているようです。数十年前には埋もれていた問題が顕著化し、より大きくなってきているのかもしれませんが。発達障害、差別、虐待、いじめなど本当にいろいろなことがあります。普段の生活では気づくことができないのですが、講座や研修を受けることで自分とは異なる目線でのとらえ方を知ることができ、問題の存在を知ることができました。まずは問題の存在を知ること、それからどう行動するか・・・そんなことを考えるきっかけとなる講座や研修をこれからも続けていきたいと思えます。

十七中校区常任委員 加納 昌美

## 十八中校区

当校区は十八中・蛍池の2地区で構成されています。

当校区には、「人権と共生」をキーワードに地域の中で地域の人たちが協力して学び合いながら子育てをしているという団体、『子育て・ふれあいの会』があります。

当校区の人権協推進委員もこの『子育て・ふれあいの会』の一員として、会が主催する行事に参加、協力することを地区活動の軸に位置づけています。



『子育て・ふれあいの会』での主な行事としては、地域の団体がさまざまな角度から人権について学んでいこうと企画する「人権から地域を考える集い」や、保護者と地域の方々が小中学校の生徒とともに協働授業を作っていく「ふれあい教育研究集会」、夏祭りである「蛍池納涼祭」、人権をテーマに、こども園から小中学校の生徒、保護者や地域の方々がそれぞれに表現活動を行う「ふれあいフェスティバル」、保護者とこども園や小中学校の先生、地域の方々がともに子育てについて話し合う「子育ておしゃべり広場」などがあり、推進委員の皆さんには、それぞれの立場で参加いただいています。



また、地区委員会の活動としては合同現地研修会を行い、PTAや蛍池公民館と共催で人権や子育てに関する講演会を開催しています。

合同現地研修会では、「鶴橋コリアタウン」や「大阪市阿倍野防災センター」を見学しました。鶴橋コリアタウンフィールドワークでは、異文化を理解し、ともに認め合うことの大切さを、阿倍野防災センターでは、防災体験を直に体験することで、災害時における自助、共助の大切さ、日頃からの人とのつながりの大切さを学びました。

このように、当地区では地域の団体や小中学校と連携しながら、人権について考える機会を少しでも多く推進委員に提供し、人権の問題をより身近な問題として皆で考えていければと思っています。

十八中校区常任委員 有馬 佳代

## 庄内さくら学園中校区(旧六中・旧十中)

人権協発足50周年を記念する年に、庄内さくら学園中学校区は誕生しました。庄内さくら学園中学校区は、第六中学校と第十中学校が合併し、さらに第七中学校区から島田小学校地区委員会も加わり、編成としては、庄内、野田、島田、さくら学園中で構成され、庄内さくら学園中は、令和2年から令和5年までの3年間という期間限定の中学校となります。

令和5年4月からは、新しく庄内さくら学園という豊中市で初めての小中一貫の義務教育学校が誕生します。庄内さくら学園中校区は、来るべき新しい学校開校に向けて誕生した校区なのです。

新しい学校が誕生する経緯については、豊中市の南部地域は、少子高齢化が進み、現状の学校よりも新しい学校を創ったほうが、子どもたちのためになる、変化をおそれず未来へ向かって力強く進んでいこうとの思いがあったからだと思います。

私は、第六中学校区の常任委員から引き続き庄内さくら学園中学校区の常任委員をさせていただくことになりましたが、昨年度末からはコロナ禍に見舞われ、今までどおりの活動ができず、もどかしいと思うこともしばしばありました。本来なら地区委員会などで実際に顔を合わせ、新たな体制に向かっての話もできず自粛となり、学校も休校になりました。今まで普通にできていたことができないという苦しい思いを経験しました。いつまで休校や自粛が続くかわからず、出口が見えない状態でしたが、励みとなったのは今年の市民の集いで『第六中学校区』として最後の意見発表ができたことです。

意見発表のなかで六中校区は落ち着いた時代を乗り越え、生徒主導の『クリーン作戦』多世代の子どもたちが表現活動に取り組む『ふれあいフェスティバル』、子どもたちの居場所づくりの『地域子ども教室』、朝のスタートをサポートする『朝ごはんの会』など地域の方やボランティアと協働して子どもたちの育ちをサポートする活動が根付いてきたこと、これは六中校区が人と人のつながりを大事にしてきた結果で庄内さくら学園中校区でも受け継ぎたいものです。



また六中校区独自の取り組みの『やさしさ宅配便』の発行は、新たな校区となっても続けていこうと思っています。『やさしさ宅配便』を発行することで、人権への気づきや学びを深めることができます。

コロナ禍の中でも地域や学校では、人と人が『今できること』について知恵を出し合って考え、前に向かって進んでいます。苦しい経験があったからこそ、いつもの日常のありがたさを改めて知ることができました。

庄内さくら学園中校区として、新たな体制となり力を合わせる仲間が増えたことを心強く感じています。

庄内さくら学園中校区常任委員 國見 静香



# 総会のあゆみ

## 総会の記念講演等

開催年	開催場所	内 容	講 師
1970年(昭和45年)	神戸銀行豊中支店	結成会 講演「人権と差別」	盛田 嘉徳
1971年(昭和46年)	克明小学校	映画「差別」	
1972年(昭和47年)	市民会館	規程改正について 講演「私たちの暮らしと部落問題」	大賀 正行
1973年(昭和48年)	市民会館	改正規程承認、映画「炎の旅」	
1974年(昭和49年)	市民会館	映画「雑草のうた」	
1975年(昭和50年)	市民会館	映画「なぜ」	
1976年(昭和51年)	市民会館	通常総会	
1977年(昭和52年)	市民会館	規程改正について	
1978年(昭和53年)	市民会館	通常総会	
1979年(昭和54年)	市民会館	規程一部改正について、講演「国際児童年と子どもの人権」	鈴木 祥蔵
1980年(昭和55年)	豊中解放会館	講演「人権と暮らし」	田中 幹夫
1981年(昭和56年)	市民会館	講演「人権」	乾 武俊
1982年(昭和57年)	市民会館	講演「地域改善対策特別措置法」	山田 農茨
1983年(昭和58年)	豊中解放会館	講演「人権問題と私たちの課題」	友永 健三
1984年(昭和59年)	市民会館	「身元調査お断り運動」特別部会報告	
		講演「人権啓発のめざすもの」	石井 吉弘
1985年(昭和60年)	市民会館	規程改正について、調査研究部会報告	
		講演「戦争と人権」	黒田 清
1986年(昭和61年)	市民会館	規程改正について、講演「いじめと差別」	八木 晃介
1987年(昭和62年)	市民会館	規程改正について、講演「くらしのなかの人権」	田村 正男
1988年(昭和63年)	市民会館	講演「みんなで道のまん中を」	大谷 昭宏
1989年(平成元年)	アクア文化ホール	臨時総会組織検討委員会報告及びその具体策について規程改正について	
	市民会館	講演「ふと立ち止まって考える」	村上 弘光
1990年(平成2年)	ローズ文化ホール	講演「子どもの権利条約について」	森田 洋司
1991年(平成3年)	市民会館	講演「人権問題と今後の課題」	内山 一雄
1992年(平成4年)	市民会館	講演「人権啓発と今後の課題」	加藤 敏明
1993年(平成5年)	市民会館	V T R 「人間の大地に生きる」	
1994年(平成6年)	市民会館	講演「映画づくり・人づくり」	丘乃 れい
1995年(平成7年)	市民会館	講演「すべての子どもに人権を」	山崎 文夫



開催年	開催場所	内 容	講 師
1996年(平成8年)	市 民 会 館	講演「これからの人権教育」	領 家 稷
1997年(平成9年)	市 民 会 館	講演「アジア太平洋時代の人種を考える」	雨 森 孝 悦
1998年(平成10年)	ローズ文化ホール	通常総会	
1999年(平成11年)	市 民 会 館	講演「家庭裁判所の事件に見る人権」	村 田 善 明
2000年(平成12年)	市 民 会 館	規程の一部改正について報告「人権活動をすすめるために」趣旨説明	佐 々 木 弘
2001年(平成13年)	市 民 会 館	講演「豊かな人権感覚を育むために」	神 原 文 子
2002年(平成14年)	市 民 会 館	組織検討委員会からの報告	
2003年(平成15年)	市 民 会 館	講演「人権の国際的基準と日本」	米 田 眞 澄
2004年(平成16年)	市 民 会 館	講演「メディアが伝えきれなかった女性と子どもたちの戦争」	西 垣 敬 子
2005年(平成17年)	市 民 会 館	講演「落語から学ぶ人情の大切さ、言葉の重み」	桂 枝 女 太
2006年(平成18年)	市 民 会 館	地区交流会	
2007年(平成19年)	市 民 会 館	地区交流会	
2008年(平成20年)	市 民 会 館	地区交流会	
2009年(平成21年)	市 民 会 館	地区交流会	
2010年(平成22年)	市 民 会 館	地区交流会	
2011年(平成23年)	アクア文化ホール	地区交流会	
2012年(平成24年)	アクア文化ホール	研修会 人権啓発ビデオ上映「夕映えのみち」	
2013年(平成25年)	アクア文化ホール	研修会 人権啓発ビデオ上映「本当の空」	
2014年(平成26年)	アクア文化ホール	研修会 人権啓発ビデオ上映「家庭の中の人権 生まれて来る声」	
2015年(平成27年)	アクア文化ホール	研修会 人権啓発ビデオ上映「あなたに伝えたいこと」	
2016年(平成28年)	アクア文化ホール	研修会 人権啓発ビデオ上映「秋桜の咲く日」	
2017年(平成29年)	アクア文化ホール	研修会 人権啓発ビデオ上映「光射す空」	
2018年(平成30年)	アクア文化ホール	研修会 人権啓発ビデオ上映「あした 咲く」	
2019年(令和元年)	アクア文化ホール	研修会 人権啓発ビデオ上映「君が、いるから」	
2020年(令和2年)	新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止		







# 「市民の集い」のあゆみ

人権協では毎年11月に「市民の集い」を行っています。「人権文化のまちづくりをすすめよう」「人権意識をより高めよう」「人権尊重の輪を広げよう」をスローガンに自らの体験発表や講師を招聘し、人権教育に関する研修を行うと共に、委員相互の連帯を深めながら人権啓発活動を推進するための集会です。

この集いは、1973年(昭和48年)2月3日に豊中市民会館で、「人権協創立3周年記念市民集会・講演と映画の集い」として854人の参加のもと開催されました。以後、今日に及び、現在もこの集会の原形が大切にされています。中でも、推進委員がそれぞれの所属地区での啓発活動の事例発表や生活体験から得られた事例発表は、参加者の共感と感銘を呼び、集会のスローガンと相俟って「集い」のメインの一つとなっています。

## 「市民の集い」における意見発表一覧表

年度	テーマ	発表者	
1973年 (昭和48年)	あゆみ学園に学ぶ人権の尊さ	二	中 青山 正義
	他人ごとではない人権教育	三	中 馬野 妙子
	胸張って人権協委員の門標を	十二	中 □村 道一
	差別と偏見のない社会づくり	九	中 佐々木 弘
	高校生の告発を自らの課題として	高	校 越水 ユリ
1974年 (昭和49年)	差別を根絶やしに	一	中 西川 一子
	自分に問いかけるもの	五	中 安藤 純
	「人権」を話しあう	六	中 榭田 昭
	八中校区研究集会を省みて	八	中 新藤 美智子
1975年 (昭和50年)	みんなの努力で	七	中 丹羽 さだ
	教材づくりと研修活動	十二	中 松井 宗彦
	豊中市同研の活動を通し	豊中市同和教育研究協議会 上西 成治	
1976年 (昭和51年)	人権の歴史と私たちの生活	六	中 重成 祝郎
	人権教育との出会い	八	中 上杉 孝實
	克明小PTAの同和教育推進のとりくみ	克明小	PTA 川島 保春
1977年 (昭和52年)	差別根絶へのみち	四	中 星野 清観
	自らをみつめて	八	中 佐藤 明子
1978年 (昭和53年)	地域における人権啓発活動	二	中 笹部 顕夫
	私自身の生き方をふりかえりながら	十一	中 森 義子
1979年 (昭和54年)	人権協委員として歩んだ6年間	七	中 武田 祐
	私と人権教育推進活動	高	校 尾瀬 美奈子
1980年 (昭和55年)	地域ぐるみの人権啓発活動	十	中 松本 勝彦
	人権協の一委員として	十一	中 河合 八千代
1981年 (昭和56年)	差別されて知る差別のながさ	四	中 洞地 時文
	人権協の一委員として	九	中 斧田 ますみ
1982年 (昭和57年)	今日までのわたくし	八	中 赤井 直
	実践から学ぶ	七	中 岡島 敬三

年度	テーマ	発表者	
1983年 (昭和58年)	地区代表委員としての私	十 一 中	中 村 明 子
	私の体験「だけ」「から」「まで」	十 三 中	菱 田 実
1984年 (昭和59年)	地域の中で	五 中	堤 其 美 子
	私の体験から	十 二 中	近 藤 勝 彦
1985年 (昭和60年)	私の学習	十 四 中	原 尾 照 子
	明るい地域社会づくりをめざして	十 六 中	岡 本 ミ ト リ
1986年 (昭和61年)	道はひとつ	三 中	橋 本 英 雄
	今思う、これからの私の役目	十 五 中	河 津 幸 子
1987年 (昭和62年)	今こそ笑顔の大切さを	一 中	高 岡 清 美
	子どもとともに	七 中	山 川 肇 子
1988年 (昭和63年)	美しい花をささえる幹・枝・葉にも愛情を	十 中	増 野 博 司
	障害者とともに	十 七 中	吉 澤 久 雄
1989年 (平成元年)	子どもの人権	六 中	北 島 孝 昭
	娘をとおして考える障害者問題	十 八 中	片 山 真 紀 子
1990年 (平成2年)	地域における啓発活動と私	二 中	城 戸 美 佐 子
	アジアの人々について	高 校	安 田 憲 司
1991年 (平成3年)	地区活動と私	四 中	久 保 松 枝
	私の人権学習	九 中	荒 井 真 理 子
1992年 (平成4年)	親が変われば、子どもも変わる	八 中	伊 藤 正 明
	思いやりの心を育てる「体験を通して学ぶことの大切さを」	十 一 中	矢 吹 早 苗
1993年 (平成5年)	私が見てきた人権、あなたには「橋のない川」が見えますか	五 中	中 川 勝 世
	他者と共に生きる	刀 根 山	辻 内 紀 子
1994年 (平成6年)	「求人広告」に応募して	十 二 中	小 西 美 佐 子
	タイ北部の少女達「アジア子ども基金」の活動から	野 畑	富 永 靖 代
1995年 (平成7年)	出会い、学び、そして今	南 桜 塚	加 藤 和 子
	子どもの心、大人の意識	北 条	渡 辺 晴 久
1996年 (平成8年)	心の音を聴く	豊 島 北	伊 原 康 子
	私の忘れかけていたもの	十 五 中	小 林 秀 行
1997年 (平成9年)	「心の財産」— 父と母からのおくりもの	庄 内 西	岸 下 美 恵 子
	わたしの意識変化「委員会活動より」	十 七 中	市 田 友 子
1998年 (平成10年)	子どもを持って“人間を尊敬すること”	野 田	高 橋 具 子
	人を思うやさしさとあたたかさにつつまれて	十 八 中	棚 野 康 子
1999年 (平成11年)	育てようやさしい心	庄 内	松 本 多 恵 子
	少路高校における人権啓発活動について	高 校	永 田 由 記 子
2000年 (平成12年)	いろんな出会いがあつて……	二 中	渡 辺 佳 代 子
	子どもたちに明るい未来を	九 中	水 本 容 子
2001年 (平成13年)	人権は家族の中に	豊 島	林 利 行
	普通に生きる	上 野	山 脇 恵 子
2002年 (平成14年)	人権について考えたこと	八 中	渡 辺 衛 子
	出会いから見えてきたもの	大 池	小 川 睦 美

年度	テーマ	発表者	
2003年 (平成15年)	心の中に問いかけて	克 明	岩井 伊都子
	ボランティアに参加しませんか？	豊 南	森田 由加里
2004年 平成16年	寄り添う心と心	野 畑	中村 百合
	母から娘たちへ	北 条	日下部 敦子
2005年 (平成17年)	私の家族の中で考えてみた人権	熊 野 田	岡井 千智
	心と心がつながって	十 五 中	清水 高子
2006年 (平成18年)	家族寄り添い、傷つけあうヤマアラシ達	豊 島 西	栗原 貴子
	真剣に向かい合って話そう	島 田	吉武 こずえ
2007年 平成19年	母と私で二人三脚	十 七 中	江田 泰子
	地域が連携して創る世代を超えた文化活動	野 田	民部 隆弘
2008年 (平成20年)	私の心の平和を世界につなぐ	庄 内	金 近 子
	伝わっていますか？本当の気持ち	十 八 中	柿本 章人
2009年 (平成21年)	挨拶の音が響きあう町に～みんなが仲良く暮らせる安心・安全の町づくり	二 中	花 岡 一
	家庭で、地域で、学校でともに成長しあう大人と子ども	高 校	神谷 雅信
2010年 平成22年	縁	四 中	高 橋 縁
	—	—	—
2011年 (平成23年)	楽しい人権をふりかえって	八 中 校 区	戸上 麻由美
	韓国・虎元初等学校と新田南小学校の交流について	九 中 校 区	大岩 枝美
2012年 (平成24年)	人権教育にふれて	五 中 校 区	長 田 公 代
	異文化体験を通しての学び	十一中校区	池 田 桂
2013年 (平成25年)	地域と共に・・・	十二中校区	十二中校区推進委員のみなさん
	私がスリランカの教育に学んだもの	十三中校区	宇田 裕華
2014年 (平成26年)	ヒーローを育てたい！夢を諦めない教育のすゝめ	十四中校区	大 橋 心
	人権研修会のあゆみ	十五中校区	土 佐 理 恵子 清 水 高 子
2015年 (平成27年)	地域と共に	十六中校区	笠井 隆子
	子どもの人権	十七中校区	日下 史江
2016年 (平成28年)	子どものことを考えるスライド絵本の取り組み	十八中校区	十八中校区のみなさん
	人権に関する取り組みについて	箕面自由学園高等学校	田中 昭雄
2017年 (平成29年)	地域とのふれあい～広げよう人権の輪～	一 中 校 区	飛鳥井 良枝
	子どもたちから教わること	二 中 校 区	林 久 美 子
2018年 (平成30年)	心の窓を広げて	三 中 校 区	百瀬 真希子
	人とのつながり	四 中 校 区	濱岡 佳子
2019年 (令和元年)	地域で子どもたちの育ちをサポートする	六 中 校 区	國見 静香
2020年 (令和2年)	子どもたちの未来のために ～児童養護施設「翼」とともに～	五 中 校 区	村瀬 令子

# 役員・常任委員現地研修会の経過

実施日	行き先・内容
1971年(昭和46年)11月	富田林市視察
1973年(昭和48年)6月	富田林市憲法月間行事参加
1982年(昭和57年)4月	和歌山県粉河町(現紀の川市)視察(身元調査問題で意見交換)
1984年(昭和59年)1月	兵庫県多紀郡篠山町(現篠山市)「丹波篠山と部落問題」
1985年(昭和60年)2月	奈良県橿原市大久保隣保館、橿原考古学研究所附属博物館
1986年(昭和61年)1月	八尾市安中解放会館(地区視察)
1987年(昭和62年)2月	大阪市浅香解放会館(地区視察)
1988年(昭和63年)11月	矢田解放会館(地区視察)
1990年(平成2年)3月	みのり園、みずほ園、おおぞら園、あゆみ園視察
1991年(平成3年)2月	富田林市(解放の歴史と現地視察)
1992年(平成4年)3月	京都市南区東九条鴨川右岸河川敷見学
1992年(平成4年)9月	岡山県立療養所邑久光明園(施設見学とハンセン病について)
1994年(平成6年)1月	姫路市上鈴総合センター(上鈴地区の歴史と皮革産業の実態)
1995年(平成7年)7月	奈良県立同和問題関係資料センター(部落史の見直しと同和問題の課題)
1996年(平成8年)7月	特別養護老人ホーム「ハートふる須磨」施設見学
1997年(平成9年)7月	南山城同報生活相談所(ウトロの町見学と土地問題について)
1998年(平成10年)7月	水平社博物館、橿原考古学研究所附属博物館
1999年(平成11年)7月	丹波マンガン記念館(李龍植館長の講話「ワシらは鉱山で生きてきた」)
2000年(平成12年)9月	柳原銀行記念資料館・京都市学校歴史博物館(崇仁地区の概要を研修)
2001年(平成13年)9月	和泉市人権文化センター(フィールドワーク、現代・人権と福祉のまちづくり)
2002年(平成14年)7月	水平社発祥の地(水平社石碑・耳塚・銀閣寺)
2003年(平成15年)9月	滋賀県高月町(現長浜市高月町)(東アジア交流ハウス雨森芳洲庵・渡岸寺観音堂)
2004年(平成16年)10月	徳島市国府町芝原生活研究所(阿波木偶箱廻しを復活する会)
2005年(平成17年)10月	和歌山県湯浅町総合センター(千福啓資さんの講演「春駒」踊り)
2006年(平成18年)10月	国立療養所長島愛生園(岡山県)フィールドワークと入所者の方のお話
2007年(平成19年)10月	丹波市柏原(大江磯吉ゆかりの地をフィールドワーク)
2008年(平成20年)9月	水平社博物館(フィールドワーク「おおくぼまちづくり館」)
2010年(平成22年)10月	奈良市内における人権スポット(北山十八間戸、般若寺、奈良豆比古神社等)
2011年(平成23年)11月	京都方面(京都と朝鮮通信使)
2012年(平成24年)11月	兵庫県たつの市(朝鮮通信使と室津)
2013年(平成25年)11月	黒谷・金戒光明寺、同志社大学・新島旧邸(八重の桜の舞台を巡って)
2014年(平成26年)11月	京都嵐山、広隆寺、木島神社・蚕の社(秦氏の足跡を巡って)
2015年(平成27年)11月	水平社博物館、橿原神宮(水平社の歴史を学ぶ)
2016年(平成28年)11月	太鼓屋六右衛門、姫路城(皮革を学ぶ)
2017年(平成29年)11月	長島愛生園(ハンセン病を学ぶ)
2018年(平成30年)11月	住吉隣保館 寿、舳松人権歴史館(フィールドワークと館内見学)
2019年(令和元年)12月	奈良飛鳥方面(フィールドワーク 日本の始まりにふれる)
2020年(令和2年)	新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止

# 写真で綴る人権協活動



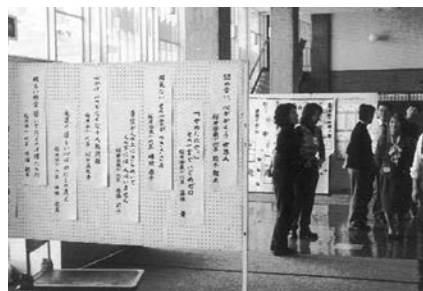
1988年(昭和63年)駅頭広報活動(豊中駅前)



2000年(平成12年)駅頭広報活動(豊中駅前)



2000年(平成12年)11月9日「市民の集い」



人権・作品展示



現地研修



ATC エイジレスセンター



亀岡盲導犬センター



リバティおおさか



阿倍野防災センター



奈良水平社  
全国水平社創立の地



ピース大阪



大阪地方裁判所



奈良



大阪水上隣保館  
児童養護施設 遥学園



京都立命館国際平和ミュージアム



南京町



神戸防災未来センター

総 会



2012年(平成24年)5月15日



2013年(平成25年)5月14日



2014年(平成26年)5月13日



2015年(平成27年)5月14日



2016年(平成28年)5月12日



2017年(平成29年)5月12日



2018年(平成30年)5月30日



2019年(令和元年)5月14日



新推進委員基礎講座 2018年(平成30年)



△千里公民館  
集会室



△文化芸術センター  
多目的室

豊中市人権協のあゆみと今後の課題

講師 元人権啓発指導員

新堀 祥一 さん

被差別文化入門ー人権文化ゆかりの地ー

講師 人権教育推進委員協議会事務局長

西田 益久 さん

役員・常任委員会 2020年(令和2年)



役員会 人権平和センター豊中  
大集会室



常任委員会 教育センター研修室

高校・支援学校代表委員会 2019年(令和元年)



大阪府立桜塚高等学校

## 推進委員研修講座



### 2017年(平成29年)第1回推進委員研修講座

あなたの命を輝かせる出会いと交流

～生きる意欲を支える対人関係～

梅花女子大学 教授 太田 仁 さん

### 2017年(平成29年)第3回推進委員研修講座

じぶん、まる！

～性ってだれかに決められるもの？～

にじいろ i - R u

田中 一歩 さん・近藤 孝子 さん



### 2018年(平成30年)第2回推進委員研修講座

一人ひとりが大事にされる人権と仲間づくり

螢池人権まづくりセンター

花村 こずえ さん



### 2018年(平成30年)第3回推進委員研修講座

子どもたちを取り巻く いじめ・SNS 問題

(佛光大学教育学部 教授・

京都教育大学大学院連合教職実践研究科 教授)

講師 原 清治 さん



### 2019年(令和元年)第3回推進委員研修講座

笑って笑ってまるもうけ

「障害」～一人ひとりが違うから思うこと～

えーぜっとの会 代表 井上 康 さん





市民の集い



2015年(平成27年)  
ガンバ大阪U-13担当  
アカデミーコーチ 宮本 恒靖さん  
JARTA代表 中野 崇さん



2016年(平成28年)  
解放社会学研究所  
所長 江嶋 修作さん



2018年(平成30年)  
一般社団法人清水健基金  
代表理事 清水 健さん

2019年(平成31年)  
佛教大学副学長  
原 清治さん



2020年(令和2年)  
From SING LIKE TALKING 佐藤 竹善さん  
ラジオ DJ 池田なみ子さん



各種発行物

機関紙



ポケットカレンダー



人権カレンダー

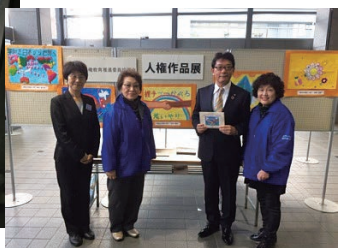


広報10月号

2020年 令和2年 広報とよなか10月号に掲載されました



人権作品展示・ロビー展





## 駅頭啓発活動



2018年(平成30年)



2016年(平成28年)



2015年(平成27年)



2013年(平成25年)



2012年(平成24年)

## 役員現地研修



2012年(平成24年)11月29日  
室津 朝鮮通信使ゆかりの地



2013年(平成25年)11月27日  
京都「八重の桜」ゆかりの地



2016年(平成28年)11月21日  
姫路 太鼓屋六右衛門



2017年(平成29年)11月28日  
岡山県 国立療養所愛生園



2018年(平成30年)10月23日  
大阪市「すみよし隣保館寿」・  
堺市「触松人権歴史館」



2019年(令和1年)12月13日  
奈良 向原寺  
～飛鳥路を訪ねて～



# 誌上座談会

## 参加者：

島田 忠雄(人権協会会長)      渡辺 美代子(人権協副会長)      青木 康二(人権協副会長)  
林 久美子(人権協常任委員)      海貝 翔太(関西大学4年)      山内 樹里(元人権協野畑地区代表委員)  
西田 益久(人権協事務局長) (五十音順)

## ●人権協との出会い●

**島田** たまたま学校のPTA役員をした関係で人権協に触れました。五中の代表委員になって、それからあっという間に34年経ちました。これだけいろいろな面で勉強させてもらったのは人権協のおかげだと思っています。

**青木** 退職して数年後に声をかけられて、人権協に関わらせてもらうようになり、基礎講座の歴史に係る講座に参加して、改めて個人参加の市民組織であることを実感しました。入ってから、絶対潰してはいけない市民組織だと思うようになり、今も参加させてもらっています。

**林** 初めは、参加していてもついていけないなという感覚がありました。でも、自分が常任委員になって、研修などを自分で企画するようになったことで視野が広がったと思います。PTA活動をやっているときは我が子、自分の学校という視点だったんですけれども、いろいろなことに、こういうことも人権なんだなと思うきっかけをここでいただきました。

**山内** 去年地区代表をさせていただいて、はじめは、人権というのは自分にはそこまで関係ないのかなと感じていましたが、お話を聞くにつれて意外と身近

なものなんだなと感じました。人権に携わせてもらって、内容が人権けれども、人権じゃないところでも話が繋がるんだなって、いろんな人との繋がりがもててすごくよかったなと思います。



**海貝** 自分の場合は昔よく遊びに行っていた公園が豊中市内で差別のあるところだと知って、それを知ってから、なんで差別されるのか、理由や歴史を学んでいくうちに、これはやはり解決していくべき問題だなと強く思うようになりました。

**西田** 今は研修会をすると、会場の多目的室がいっぱいになるんですよ。かつての常任委員さんが、「私たちが最初やっていた頃は、本当に声をかけても人が集まらなくて。これでいいのかなと思っていた人権協の活動だったけど、今は多目的室にいっぱい集まって、そして次、どういうふうな研修をしようかと言っている場ができてるのは夢みた



いですし、だからこそ私たちはやっていて良かった。ちゃんと繋がっていると思えて安心しました。」と言ってくださったことに参与として協力させていただいてよかったなとしみじみ感じたことがありました。

島田

昔、機関紙を手配りをした地区代表の方がワンちゃんに噛まれたと聞いて、すごく心配して飛んでいったんです。そしたら、「気にしないでいいですよ」とおっしゃってくださった。その言葉で、ここまで熱心にしてくださっているんだなと思ったのを覚えています。

渡辺

公民館での人権学習講座で、人権協の推進委員さんだけでなく、推進委員さんになっていない公民分館の役員の方々とも一緒に同和や人権問題について学ぶ大切さを感じています。「自分の娘が結婚相手に選んだ人が部落出身だったらどうしますか」という講師の質問に、ある方が「今までは絶対にあかんと思っていたけれども研修会を重ねて受けるごとに、人間はみんな一緒なんだ。平等なんだ。だから部落とか同和問題のことでいろいろと言うのはおかしい。自分の子どもがもしそうなった時には本人に任せてやって、本人がいいと思ったら結婚させてやりたい。」と話されたのを記憶しています。一人でも多くの人に部落差別のことをわかってもらえる人権学習講座を地域のなかでやっているんだなと胸がいっぱいになりました。

青木

身元調査をきっかけに人権協が立ち上がった時、「人権教育が大事だ」、「学校との繋がりが大事だ」と言われてから50年積も重ねてこられたんだと思う。それと同時に、もうひとつは校区のPTAの方々との関係性ですね。地区代表委員会や地区委員会のその場

の中で、お互いの抱える思いを出し合えることの凄さを実感しました。「実は私の子どもがね」っていう、そういう話をその場の中でできるという雰囲気、そしてその場の雰囲気をつくられる常任委員さんや地区代表さんというリーダーの方がそこにはいらっしゃるんですね。

渡辺

その年度の新しいPTAの方や、地域の中から出てきた推進委員さんが基礎講座を受ける。受けた人がゆくゆくは地域の中の地区代表さんや常任委員さんなどのリーダーになって育っていく。その方たちの声かけや進め方とかを上手にされているんです。そのおかげで、みんながひとつになって一緒に進められることで、より一層学ぼうとすることが次へ繋がっていているのだと思います。



林

研修に参加していただけたときには、「こういう講座受けてきたんだ」と話すことはなかったんですけど、自分で研修会を企画してみるようになって、直に話を聞くと、その場にいた方と一緒に話題が共有できるようになりました。子どもたちは学校で人権教育を受けていますが、私は豊中に来て初めて人権協に入って、私も学びの場ができました。子どもと同じことを学べている、会話ができる。今は多様性の受容っ



ていうのか、自分はこうだけれど人は違うかもしれないって思えるようになってきました。これはこの場に参加させてもらったからだと思います。

**西田**

豊中市の人権協は他の団体と違って名称に「委員」と入っているんです。この「委員」というところが大切なところで、他市にはないところなんです。初代高畠先生が差別のない明るいまちにするには「市民ひとりひとりに人権教育を徹底させる必要がある」と。やっぱり教育推進委員なんですね。ここが人権協が背負っている他市とはちがう凄さだと思っています。

● 最近気になること ●

**渡辺**

テレビなどで情報がたくさん入ってくるけど、コロナについては普通の生活をしながら正しく理解して毎日の生活を送れるようにしないとイケないと思います。

**西田**

ある人がうちの県ではコロナが少ない、と自慢している。おかしいですよね。みんなでどうしたらいいのかと考えていく場なのに情報の取り方ですよね。インターネットの中でも間違っ

情報が垂れ流しになってしまっています。小学生、中学生ってすぐにネットやSNSで調べてしまいますよね。「コロナ」「感染」とかって調べたら間違っただ情報がたくさん出てきます。

**林**

教育が必要なのは親ですよ。社会教育上わかっているけど自分はそれと同じように行動できないのが親ですよ。我が子のことになるとそれはそれ、うちはうちって感じになってしまうんですね。

**山内**

手軽に誰にでも伝えられる時代になったので、一つ聞くと十広がる感じなんです。地方の方でコロナが出て、そしたらいじめじゃないけど壁に落書きされて引っ越しせざるを得なくなってしまったという例もあるみたいなので厳しいなと思います。

**海貝**

地方ではひとりひとりのコミュニケーションの密度が上がるからだったりするんですかね。

**山内**

横の繋がりが強くて、「どこどこの誰々さんちの何々さんの息子さんが」って。「大阪に住んでいるから、帰ってこさせたらあかんよ」って。

**海貝**

昔はこれが出身地とかだったってことですよ。

**山内**

同じことです。それがコロナに変換されただけです。

**西田**

まちがいと分かっているんだけど、なかなか身につけていないということですね。



●まとめ●

**海 貝**

身近なこととして、問題意識を持つことの必要性を強く感じさせていただきました。

**山 内**

人権だからってことではなくて、普段の生活の中で、そういうこともあるしこういうこともあるけど違うよね、みんなと楽しくやろうね、仲良くやろうね、やさしくなろうね、というのを子どもたちに伝えていけたらと思います。それが後々人権につながっていくんじゃないかなって思っています。

**林**

人権協は自分の言動におきかえて考える場であって、これからもそれが続けられたらと思っています。自分と関係ないところで起こっている問題じゃなくて、自分のことに当てはめて常に意識づけながら活動に参加していきたいなと思います。

**青 木**

多様な課題にどう向き合っていくのかという言われ方がされる中で、常に部落問題に、身元調査に振り返ることを大事にした人権協の活動をしていきたいと思っています。同和問題が隅っこに追いやられて誰もが触れられなくなってしまったことこそが怖い。私自身の課題としてはそこから学ぶ課題、そこに真正面から向き合いながら自分を作っていくこと、それが自分作りだなって思っています。

**渡 辺**

地域の繋がり、人権協とともに地域と学校もいっしょに歩んでいる、それが人権協の素晴らしいところで今まで続いてきたのだと思います。

**島 田**

結成当時からいうと50年の年月。これだけの組織がみなさんのお力ででき

ているということ、まずそれを感謝申し上げます。豊中各地域にそれぞれ推進委員が散らばって、小さい点が多く集まって大きな面になり豊中が人権で開かれた地域になるだろうという思いで活動しておりました。時代は大きく変わったんですが、やっぱりみなさんのこの熱い思いはいまだにあるということで今後人権協の活動に出てくればありがたいなと思います。

**西 田**

50年が道筋なんです。よくぞ50年続けてこられたという敬意、感謝。それ以外にない。それほどすごい思いで続けていただけて来た人権協をやっぱり潰すわけにはいかない。次の60年70年100年に向けて歩いて行ってほしいなという思いで参加させていただいています。みなさんもそんな思いで人権協に注目していただけたらと思います。明日からまた51年目に向けて頑張っていけたらと思います。

# 人権協と「人権文化のまちづくりをすすめる条例」

人権協の推進委員をはじめ多くの市民の皆さんの願いとして、署名活動等の取り組みがなされ、平成10年(1999年)4月1日、豊中市は「人権文化のまちづくりをすすめる条例」を公布、施行されました。

この条例は、私たちの日常生活の中でその行動や判断のよりどころとしてきた生活意識やものの見方、考え方(=文化)を人権尊重の視点で問い直すものです。

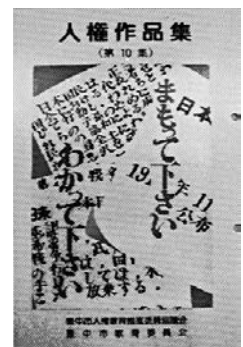
そして、共に生き、活かしあうことのできる、人権に根ざした文化に満ちたまちの実現をめざしています。さて、この条例が制定された背景、条例の目的や内容と人権協推進委員としての関わりについて考えてみたいと思います。

豊中市は、昭和59年(1984年)に人権擁護都市宣言をしました。一方、新総合計画において、「平和で平等な社会づくり」を掲げるとともに、人権啓発基本方針をはじめとする各種の方針や計画を策定されました。

人権協としてもこれらの諸課題の解決に向けて取り組みを進めてきたところではありますが、しかしながら依然として社会は、結婚や就職において地域や出身を理由に忌避されたり、国籍や障害があるということで就職や入居が拒否されるなどの人権侵害があり、社会の変化にともないセクシュアルハラスメントやいじめ、虐待など、女性や子ども、高齢者の人権が侵害されるという状況も現れています。また、昨今は、自分の自己の権利を主張するあまり、他者の人権をおろそかにするといった傾向も見受けられます。

人権はだれもが生まれながらにして当然に持っている、自由に幸せに生きる権利です。ただし、この権利は他者の人権を侵してはならないという前提のもとに認められている権利です。このことを再確認するとともに、人権問題が自分と関わりのない他人の問題と考えるのではなく、私たち一人ひとりの生活と結びついた、自分の生き方に関わる事として受けとめることが大切ではないでしょうか。

21世紀を『人権の世紀』としての実現に向けて、人権協としてもこの「人権文化のまちづくり」に精進したいものです。



# 人権文化のまちづくりをすすめる条例

〔 豊中市条例 第 10 号  
公 布 平成 11 年 4 月 1 日 〕

## (前 文)

私たちは、基本的人権の尊重を基調とした日本国憲法の理念並びにすべての人間は生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等であるとする世界人権宣言の趣旨にのっとり、人権擁護都市を宣言し、一人ひとりの人権が尊重されるまちづくりに努めてきました。

しかしながら、社会的身分、人種、民族、性別、障害があること等により人権が侵害されている現実があります。また、私たちをとりまく社会状況の変化等により、人権にかかわる新たな諸課題も現れてきています。

私たちが享有する基本的人権は、侵すことのできない永久の権利であり、その権利を行使するに当たっては一人ひとりが社会の構成員としての責任を自覚し、互いの人権を尊重すべきであるという道理を一層浸透させていかなければならないという課題があります。

これらの課題等を克服し、すべての人の人権が尊重されるためには、私たち一人ひとりがこれまでのものの見方、考え方を人権尊重の視点で問い直すとともに、共に生きる豊かな関係を育み、活動の輪をひろげ、人権尊重が当たり前のこととして受け入れられる人権に根ざした文化を創造することが大切になっています。

私たちは、このような営みをとおして人権文化のまちづくりをすすめるため、たゆまぬ努力を傾けることを決意し、この条例を制定します。

## (目 的)

第1条 この条例は、人権文化のまちづくりをすすめるに当たっての、市と市民の役割を明らかにするとともに、人権文化のまちづくりをすすめる施策の推進体制等に関する事項を定めることによ

り、必要な施策を推進し、もって、人権文化が創造されたまちの実現をめざすことを目的とする。

## (市の役割)

第2条 市は、人権尊重の視点をあらゆる施策に生かすとともに、市民の自主性を尊重して人権に対する意識の高揚に務め、人権文化のまちづくりをすすめる施策を推進するものとする。

## (市民の役割)

第3条 市民は、互いに人権を尊重し、市とともに自らがまちづくりの主体として、家庭、地域、学校、職場等あらゆる生活の場において、人権を尊重することが当たり前のこととして受け入れられる、人権文化のまちづくりをすすめるよう努めるものとする。

## (推進体制の充実)

第4条 市は、人権文化のまちづくりをすすめる施策の推進について、国、大阪府、関係団体等との連携を図るとともに、必要な推進体制の充実に努めるものとする。

## (協 議 会)

第5条 人権文化のまちづくりをすすめるための総合的な施策について協議するため、人権文化のまちづくりをすすめる協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会の組織、運営その他必要な事項は、市規則で定める。

## 附 則

この条例は、公布の日から施行する。

第5条の規定は、市規則で定める日から施行する。





# 豊中市人権協の進むべき道すじを求めて

人権協が50周年を迎えるにあたって、2011～2020年間ににおいても国内外でさまざまな出来事がありました。2011年3月に宮城県沖で起きた国内観測史上最大のM9.0の巨大地震、大津波が次々と沿岸部を襲い宮城、岩手、福島を3県を中心に死者は約1万5800人、行方不明者は約3500人にも及びました。

併せて東京電力福島第1原発では建屋が崩壊し電源が止まり、原子炉は冷却機能を失い、メルトダウン(炉心溶解)を引き起こしました。更に水素爆発により大量の放射性物質が放出され未曾有の被害を出しました。広島・長崎に続いて福島が3度目の被爆地と言われるほどの深刻さです。

2016年5月、オバマ米国大統領は現職の大統領として初めて被爆地広島を訪れ、平和記念公園の原爆死没者慰霊碑に献花をしました。献花後の演説では「われわれには歴史を直視し、何をしなければならぬか自問する共通の責任がある」と述べ、「核兵器なき世界」を追求する重要性を訴えました。

2017年7月の国連では、核兵器の使用や保有、製造などを禁止する「核兵器禁止条約」が122カ国の賛成を得て採択されました。核非保有国の主導で交渉が進んだ歴史的な条約です。12月には各国政府などに同条約への参加を促した国際的NGOの連合体「核兵器廃絶国際キャンペーン(I CAN)」がノーベル平和賞を受賞する等、核兵器禁止への気運が一気に高まりました。

そして2020年1月、中国武漢で発生した新型コロナウイルスは瞬く間に世界中に拡散し、多くの国で非常事態宣言が出されました。手洗いうがいの励行、マスクの装着、三密回避や不要不急の外出自粛、飲食店や企業活動にも休業要請が求められ街の通りから人影が消えて行きました。

あの時の福島原発事故と同じように、感染拡大と共に偏見と差別がのしかかりました。感染者に対する乗車拒否や登園自粛にとどまりません。「なじみの飲食店から来ないでほしい」「感染症病床で勤務していることを夫の勤務先に知られ、夫が休むよう言われた」といった人が出てきました。感染者を受け入れている医療機関に勤務しているというだけで、子どもが学校でいじめにも遭いました。さらに自粛警察と称して、脅迫・中傷・投石、そして極め付けは悪意に満ちた貼り紙まで、街は見えない敵意に戦々恐々となりました。

ここ10年、在日外国人に対して憎悪に満ちた攻撃・脅迫などのヘイトスピーチが激しさを増しています。ネット社会で起きている差別の拡散、SNSで個人を誹謗・中傷する書き込みが大きな社会問題となりました。格差社会がもたらす生きづらさが背景にあるのでしょうか。

2016年、人権三法(障害者差別解消法・ヘイトスピーチ解消法・部落差別解消法)の成立は社会の現実を的確に投射してのことでしょう。人間はどこで生まれようと、どこで暮らしていこうと、幸せに生きていく権利があります。これが基本的人権です。これをお互いが侵害しないことが、真の民主主義建設につながります。わずか半世紀を経た人権協ですが「豊中市人権擁護都市宣言」の趣旨は世界原理です。さらに、すべての人々の人権が擁護され、人にやさしい、住み続けたい「とよなか」を築いていきましょう。

事務局長 西田 益久

# 豊中市人権協役員・常任委員名簿

	役職名	1970年(昭和45年)	1971年(昭和46年)	1972年(昭和47年)	1973年(昭和48年)	1974年(昭和49年)	1975年(昭和50年)
役員	会 長	高島 光明	高島 光明	高島 光明	高島 光明	高島 光明	高島 光明
	副 会 長	矢野 誠二	矢野 誠二	村田 佐市	村田 佐市	村田 佐市	村田 佐市
		-----	-----	前川 勤治	前川 勤治	前川 勤治	木下 虎之助
		-----	-----	-----	木下 虎之助	木下 虎之助	山脇 善彰
	書 記	村田 佐市	村田 佐市	宇野 耕平	宇野 耕平	口村 道一	口村 道一
		田原 翠成	田原 翠成	山脇 善彰	山脇 善彰	山脇 善彰	馬野 妙子
	会 計	小林 芳枝	下舞 都恵子	田村 幸子	小野田 薫	小野田 薫	小野田 薫
下舞 都恵子		小林 芳枝	小野田 薫	松永 栄子	松永 栄子	越水 ユリ	
会 計 監 査 <small>(47年度より監査役)</small>	前川 勤治	前川 勤治	岸本 達四郎	佐藤 美惺	佐藤 美惺	佐藤 美惺	
	岸本 達四郎	岸本 達四郎	木下 虎之助	松尾 冴子	松尾 冴子	松尾 冴子	
常任委員	一中校区	瓦林 叔子	永田 嘉朗	永田 嘉朗	永田 嘉朗	永田 嘉朗	永田 嘉朗
	二中校区	下舞 都恵子	下舞 都恵子	河村 綾子	河村 綾子	河村 綾子	佐伯 崇雄
	三中校区	鎌田 満里子	小野田 薫	馬野 妙子	馬野 妙子	阪田 浩法	阪田 浩法
					阪田 浩法		
	四中校区	田原 翠成	田原 翠成	田原 翠成	田原 翠成	星野 清観	星野 清観
					星野 清観		
	五中校区	田村 幸子	田村 幸子	竹内 良子	竹内 良子	竹内 良子	岡 利一
		三木 三徳	三木 三徳	江村 淳三			
		村田 佐市	村田 佐市	松尾 冴子			
	六中校区	小札 精一	小札 精一	小札 精一	小札 精一	大本 定男	柘田 昭
	七中校区	宇野 耕平	宇野 耕平	上島 良一	小島 薫	小島 薫	亀田 末子
	八中校区	小林 芳江	小林 芳江	松永 栄子	新藤 美智子	新藤 美智子	上杉 孝実
	九中校区	-----	山脇 善彰	石川 藤一	佐々木 弘	佐々木 弘	佐々木 弘
	十中校区	-----	-----	毛利 正円	毛利 正円	毛利 正円	森井 千代子
十一中校区	-----	-----	-----	馬野 妙子	馬野 妙子	左右田 信子	
十二中校区	-----	-----	-----	田原 翠成	田原 翠成	田原 翠成	
十三中校区	-----	-----	-----	-----	-----	-----	
高校部会	-----	-----	越水 ユリ	越水 ユリ	越水 ユリ	大賀 隆寿	



	役職名	1976年(昭和51年)	1977年(昭和52年)	1978年(昭和53年)	1979年(昭和54年)	1980年(昭和55年)	1981年(昭和56年)
役員	会 長	高 島 光 明	高 島 光 明	高 島 光 明	高 島 光 明	高 島 光 明	高 島 光 明
	副 会 長	村 田 佐 市	村 田 佐 市	村 田 佐 市	村 田 佐 市	村 田 佐 市	村 田 佐 市
		木 下 虎 之 助	木 下 虎 之 助	木 下 虎 之 助	山 脇 善 彰	山 脇 善 彰	山 脇 善 彰
		山 脇 善 彰	山 脇 善 彰	山 脇 善 彰	星 野 清 観	星 野 清 観	星 野 清 観
	書 記	口 村 道 一	口 村 道 一	口 村 道 一	馬 野 妙 子	馬 野 妙 子	馬 野 妙 子
		馬 野 妙 子	馬 野 妙 子	馬 野 妙 子	佐 々 木 弘	佐 々 木 弘	佐 々 木 弘
	会 計	小 野 田 薫	小 野 田 薫	小 野 田 薫	越 水 コリ	越 水 コリ	越 水 コリ
		越 水 コリ	越 水 コリ	越 水 コリ	田 村 幸 子	田 村 幸 子	田 村 幸 子
	監 査 役	佐 藤 美 惺	佐 藤 美 惺	佐 藤 美 惺	口 村 道 一	口 村 道 一	口 村 道 一
		松 尾 冴 子	上 杉 孝 實	阪 田 浩 法	永 田 嘉 朗	永 田 嘉 朗	永 田 嘉 朗
常任委員	一 中 校 区	永 田 嘉 朗	西 川 一 子	西 川 一 子	三 宅 川 正	三 宅 川 正	三 宅 川 正
	二 中 校 区	佐 伯 崇 雄	山 本 司 郎	山 本 司 郎	笹 部 顕 夫	笹 部 顕 夫	溝 田 存
	三 中 校 区	阪 田 浩 法	小 林 実	小 林 実	田 中 庄 一	田 中 庄 一	藤 井 妙 子
	四 中 校 区	星 野 清 観	星 野 清 観	星 野 清 観	田 井 孝 弘	田 井 孝 弘	山 口 重 忠
	五 中 校 区	岡 利 一	岡 利 一	岡 利 一	田 中 渡	田 中 渡	永 浜 多 恵 子
	六 中 校 区	重 成 祝 郎	西 尾 千 恵 子	山 脇 秀 雄	山 脇 秀 雄	山 脇 秀 雄	山 脇 秀 雄
	七 中 校 区	亀 田 末 子	亀 田 末 子	亀 田 末 子	武 田 祐	武 田 祐	篠 原 虎 一
	八 中 校 区	上 杉 孝 実	新 藤 美 智 子	新 藤 美 智 子	佐 藤 明 子	佐 藤 明 子	佐 藤 明 子
	九 中 校 区	佐 々 木 弘	佐 々 木 弘	佐 々 木 弘	斧 田 ます み	斧 田 ます み	斧 田 ます み
	十 中 校 区	森 井 千 代 子	森 井 千 代 子	森 井 千 代 子	松 本 勝 彦	松 本 勝 彦	山 口 好 和
	十 一 中 校 区	左 右 田 信 子	藤 戸 順 子	藤 戸 順 子	河 津 幸 子	河 津 幸 子	坂 口 富 久 子
	十 二 中 校 区	田 原 翠 成	奥 田 幾 治 郎	奥 田 幾 治 郎	奥 田 幾 治 郎	奥 田 幾 治 郎	奥 田 幾 治 郎
	十 三 中 校 区	----	山 本 正 一	山 本 正 一	小 山 祐 一	小 山 祐 一	山 本 正 一
	十 四 中 校 区	----	----	----	遠 藤 幸 子	遠 藤 幸 子	遠 藤 幸 子
	十 五 中 校 区	----	----	----	----	----	河 津 幸 子
高 校 部 会	高 橋 令 子	南 本 芳 夫	佐 伯 崇 雄	高 津 弘	奥 義 信	川 口 慎 二	







	役職名	1988年(昭和63年)	1989年(平成元年)	1990年(平成2年)	1991年(平成3年)	1992年(平成4年)	1993年(平成5年)	
役 員	会 長	高 島 光典	星 野 清観	星 野 清観	田 原 翠成	田 原 翠成	田 原 翠成	
	副 会 長	星 野 清観	佐 々 木 弘	佐 々 木 弘	佐 々 木 弘	佐 々 木 弘	佐 々 木 弘	佐 々 木 弘
		佐 々 木 弘	北 之 防 正保	北 之 防 正保	下 村 弘	下 村 弘	下 村 弘	下 村 弘
		北 之 防 正保	下 村 弘	下 村 弘	永 田 嘉朗	永 田 嘉朗	永 田 嘉朗	永 田 嘉朗
		田 村 幸子	永 田 嘉朗	永 田 嘉朗	越 水 コリ	越 水 コリ	越 水 コリ	佐 藤 明子
		下 村 弘	越 水 コリ	越 水 コリ	佐 藤 明子	佐 藤 明子	佐 藤 明子	島 田 忠雄
		----	----	----	島 田 忠雄	島 田 忠雄	島 田 忠雄	----
	書 記	佐 藤 明子	佐 藤 明子	佐 藤 明子	小 野 田 薫	小 野 田 薫	小 野 田 薫	小 野 田 薫
		小 野 田 薫	小 野 田 薫	小 野 田 薫	山 崎 美代子	山 崎 美代子	山 崎 美代子	山 崎 美代子
	会 計	越 水 コリ	大 田 宣夫	大 田 宣夫	柴 田 匡	柴 田 匡	柴 田 匡	柴 田 匡
大 田 宣夫		高 野 アヤ子	高 野 アヤ子	高 野 アヤ子	高 野 アヤ子	高 野 アヤ子	高 野 アヤ子	
監 事 (60年度より名称変更)	羽 田 岡造	羽 田 岡造	羽 田 岡造	羽 田 岡造	羽 田 岡造	羽 田 岡造	羽 田 岡造	
	平 井 弘三郎	平 井 弘三郎	平 井 弘三郎	平 井 弘三郎	平 井 弘三郎	平 井 弘三郎	平 井 弘三郎	
相 談 役	村 田 佐市	村 田 佐市	村 田 佐市	村 田 佐市	村 田 佐市	村 田 佐市	村 田 佐市	
	山 脇 善彰	山 脇 善彰	山 脇 善彰	馬 野 妙子	馬 野 妙子	馬 野 妙子	馬 野 妙子	
	馬 野 妙子	馬 野 妙子	馬 野 妙子	高 島 光典	高 島 光典	高 島 光典	高 島 光典	
	----	高 島 光典	高 島 光典	星 野 清観	北 之 防 正保	北 之 防 正保	北 之 防 正保	
	----	----	----	北 之 防 正保	----	----	----	
常 任 委 員	一 中 校 区	柴 田 匡	柴 田 匡	柴 田 匡	高 岡 清美	高 岡 清美	竹 内 智子	
	二 中 校 区	別 符 忠雄	城 戸 美佐子	城 戸 美佐子	加 藤 美由紀	加 藤 美由紀	加 藤 美由紀	
	三 中 校 区	加 藤 博子	山 内 美恵子	山 内 美恵子	北 垣 紀子	北 垣 紀子	加 藤 和子	
	四 中 校 区	山 口 重忠	久 保 松枝	久 保 松枝	久 保 松枝	久 保 松枝	久 保 松枝	
	五 中 校 区	島 田 忠雄	島 田 忠雄	島 田 忠雄	那 須 厚郎	那 須 厚郎	那 須 厚郎	
	六 中 校 区	高 野 アヤ子	北 島 孝昭	北 島 孝昭	北 島 孝昭	北 島 孝昭	松 本 多恵子	
	七 中 校 区	武 田 祐	武 田 祐	武 田 祐	武 田 祐	岡 島 敬三	岡 島 敬三	
	八 中 校 区	赤 井 直	加 福 由利	加 福 由利	石 丸 誠子	石 丸 誠子	石 丸 誠子	
	九 中 校 区	山 崎 美代子	山 崎 美代子	山 崎 美代子	荒 井 真理子	荒 井 真理子	荒 井 真理子	
	十 中 校 区	石 口 信行	石 口 信行	石 口 信行	梶 川 善宣	梶 川 善宣	梶 川 善宣	
	十一中校区	深 川 喜美子	渡 辺 美代子	渡 辺 美代子	渡 辺 美代子	渡 辺 美代子	渡 辺 美代子	
	十二中校区	中 尾 弘	袋 井 義見	袋 井 義見	東 村 高明	東 村 高明	古 川 勝	
	十三中校区	駒 谷 繁子	仲 峰子	仲 峰子	仲 峰子	西 村 公江	西 村 公江	
	十四中校区	遠 藤 幸子	原 尾 照子	原 尾 照子	原 尾 照子	原 尾 照子	土 江 多代	
	十五中校区	峰 岸 暁美	峰 岸 暁美	峰 岸 暁美	峰 岸 暁美	峰 岸 暁美	峰 岸 暁美	
	十六中校区	瀨 川 展彦	瀨 川 展彦	瀨 川 展彦	瀨 川 展彦	瀨 川 展彦	西 本 昌子	
	十七中校区	土 橋 征昭	土 橋 征昭	土 橋 征昭	土 橋 征昭	土 橋 征昭	田 島 洋子	
	十八中校区	田 中 ひろみ	片 山 真紀子	曾 我部 文子	高 岡 洋子	高 岡 洋子	高 岡 洋子	
高 校 部 会	中 谷 珠恵	斎 藤 美津子	近 山 幸子	上 田 春雄	加 藤 茂	越 智 厚子		

役職名		1994年(平成6年)	1995年(平成7年)	1996年(平成8年)	1997年(平成9年)	1998年(平成10年)	1999年(平成11年)
役 員	会 長	田原 翠成	田原 翠成	田原 翠成	田原 翠成	田原 翠成	田原 翠成
	副 会 長	佐々木 弘	佐々木 弘	佐々木 弘	佐々木 弘	佐々木 弘	佐々木 弘
		下村 弘	永田 嘉朗	永田 嘉朗	永田 嘉朗	永田 嘉朗	島田 忠雄
		永田 嘉朗	佐藤 明子	佐藤 明子	佐藤 明子	佐藤 明子	岡島 敬三
		佐藤 明子	島田 忠雄	島田 忠雄	島田 忠雄	島田 忠雄	高野 アヤ子
		島田 忠雄	岡島 敬三	岡島 敬三	岡島 敬三	岡島 敬三	渡辺 美代子
	-----	-----	-----	-----	-----	古川 勝	
	書 記	小野田 薫	高野 アヤ子	高野 アヤ子	高野 アヤ子	高野 アヤ子	那須 厚郎
		山崎 美代子	渡辺 美代子	渡辺 美代子	渡辺 美代子	渡辺 美代子	加藤 美由紀
	会 計	柴田 匡	山崎 美代子	山崎 美代子	那須 厚郎	那須 厚郎	土江 多代
		高野 アヤ子	那須 厚郎	那須 厚郎	土江 多代	土江 多代	和田 省史
	監 事	羽田 岡造	羽田 岡造	羽田 岡造	小野田 薫	小野田 薫	小野田 薫
平井 弘三郎		小野田 薫	小野田 薫	古川 勝	古川 勝	山田 晨茨	
相 談 役	村田 佐市	村田 佐市	村田 佐市	村田 佐市	村田 佐市	村田 佐市	
	高畠 光典	高畠 光典	高畠 光典	高畠 光典	高畠 光典	高畠 光典	
	北之防 正保	北之防 正保	北之防 正保	北之防 正保	北之防 正保	永田 嘉朗	
	-----	-----	-----	-----	-----	佐藤 明子	
常 任 委 員	一中校区	堀 泰代	奥井 みどり	奥井 みどり	伊原 康子	伊原 康子	室田 ゆみ
	二中校区	加藤 美由紀	加藤 美由紀	加藤 美由紀	加藤 美由紀	加藤 美由紀	谷崎 妙子
	三中校区	加藤 和子	小合 孝子	小合 孝子	嶋岡 仁子	嶋岡 仁子	伴野 多鶴子
	四中校区	久保 松枝	中野 博通	中野 博通	中野 博通	中野 博通	中野 博通
	五中校区	那須 厚郎	和田 省史	和田 省史	和田 省史	和田 省史	田崎 正行
	六中校区	松本 多恵子	松本 多恵子	松本 多恵子	松本 多恵子	松本 多恵子	松本 多恵子
	七中校区	岡島 敬三	前田 忠志	前田 忠志	前田 忠志	前田 忠志	前田 忠志
	八中校区	石丸 誠子	石丸 誠子	石丸 誠子	石丸 誠子	石丸 誠子	石丸 誠子
	九中校区	山内 理恵	山内 理恵	山内 理恵	水本 容子	水本 容子	水本 容子
	十中校区	梶川 善宣	梶川 善宣	梶川 善宣	梶川 善宣	梶川 善宣	梶川 善宣
	十一中校区	渡辺 美代子	宮本 とも子	宮本 とも子	槌野 富志恵	槌野 富志恵	藤森 玲子
	十二中校区	古川 勝	古川 勝	古川 勝	岸上 善郎	岸上 善郎	岸上 善郎
	十三中校区	西村 公江	関野 弘子	関野 弘子	駒谷 繁子	駒谷 繁子	小中 みつる
	十四中校区	土江 多代	土江 多代	土江 多代	西野 さつき	西野 さつき	中野 紀子
	十五中校区	峰岸 暁美	庄坪 トキ子	庄坪 トキ子	庄坪 トキ子	庄坪 トキ子	庄坪 トキ子
	十六中校区	西本 昌子	西本 昌子	西本 昌子	西本 昌子	西本 昌子	西本 昌子
	十七中校区	田島 洋子	森島 喜美子	森島 喜美子	市田 友子	市田 友子	甲斐 佳子
	十八中校区	高岡 洋子	佐々木 征子	佐々木 征子	佐々木 征子	佐々木 征子	松井 園子
高校部会	木村 益偉	中西 信介	藤井 和子	大石 絵利子	井上 和子	中村 知	

	役職名	2000年(平成12年)	2001年(平成13年)	2002年(平成14年)	2003年(平成15年)	2004年(平成16年)	2005年(平成17年)	
役員	会長	田原 翠成	島田 忠雄	島田 忠雄	島田 忠雄	島田 忠雄	島田 忠雄	
	副会長	佐々木 弘	佐々木 弘	佐々木 弘	佐々木 弘	高野 アヤ子	高野 アヤ子	
		島田 忠雄	高野 アヤ子	高野 アヤ子	高野 アヤ子	渡辺 美代子	渡辺 美代子	
		岡島 敬三	渡辺 美代子	渡辺 美代子	渡辺 美代子	古川 勝	古川 勝	
		高野 アヤ子	古川 勝	古川 勝	古川 勝	山田 晨茨	那須 厚郎	
		渡辺 美代子	山田 晨茨	山田 晨茨	山田 晨茨	那須 厚郎	和田 省史	
		古川 勝	-----	-----	那須 厚郎	-----	中野 博通	
	書記	那須 厚郎	那須 厚郎	那須 厚郎	加藤 美由紀	加藤 美由紀	加藤 美由紀	
		加藤 美由紀	加藤 美由紀	加藤 美由紀	水谷 徳子	水谷 徳子	水谷 徳子	
		会計	土江 多代	和田 省史	和田 省史	和田 省史	和田 省史	野中 將生
			和田 省史	中野 博通	中野 博通	中野 博通	中野 博通	早瀬 美和
	監事	小野田 薫	奥村 八重子	奥村 八重子	奥村 八重子	奥村 八重子	奥村 八重子	
		山田 晨茨	水谷 徳子	水谷 徳子	野中 將生	野中 將生	平尾 和	
	相談役	村田 佐市	村田 佐市	村田 佐市	村田 佐市	村田 佐市	村田 佐市	
高島 光典		高島 光典	高島 光典	高島 光典	高島 光典	高島 光典		
永田 嘉朗		永田 嘉朗	永田 嘉朗	永田 嘉朗	永田 嘉朗	永田 嘉朗		
佐藤 明子		佐藤 明子	佐藤 明子	佐藤 明子	佐藤 明子	佐藤 明子		
-----		田原 翠成	田原 翠成	田原 翠成	田原 翠成	田原 翠成		
-----		岡島 敬三	岡島 敬三	岡島 敬三	岡島 敬三	岡島 敬三		
-----		-----	-----	-----	-----	山田 晨茨		
常任委員	一中校区	室田 ゆみ	中川 美代子	中川 美代子	土井 しほり	土井 しほり	正木 加津美	
	二中校区	谷壽 妙子	安藤 峰子	安藤 峰子	松田 淳	松田 淳	猪岡 由美子	
	三中校区	伴野 多鶴子	伴野 多鶴子	伴野 多鶴子	仲井 登志子	仲井 登志子	中山 千恵子	
	四中校区	中野 博通	徳野 良恵	徳野 良恵	徳野 良恵	徳野 良恵	加藤 美代子	
	五中校区	田崎 正行	田崎 正行	田崎 正行	森 祐昭	森 祐昭	森 祐昭	
	六中校区	松本 多恵子	松本 多恵子	松本 多恵子	松本 多恵子	松本 多恵子	松本 多恵子	
	七中校区	前田 忠志	小西 みゆき	小西 みゆき	小西 みゆき	小西 みゆき	小西 みゆき	
	八中校区	小泉 眞理	小泉 眞理	小泉 眞理	小泉 眞理	小泉 眞理	清水 千緋	
	九中校区	和仁原 昭子	中川 尚子	中川 尚子	海津 直	海津 直	高野 恵子	
	十中校区	梶川 善宣	梶川 善宣	梶川 善宣	光久 悦代	光久 悦代	光久 悦代	
	十一中校区	藤森 玲子	木村 美抄子	木村 美抄子	原 由規子	原 由規子	前川 順子	
	十二中校区	岸上 善郎	大月 淑子	大月 淑子	大月 淑子	大月 淑子	山本 えり子	
	十三中校区	小中 みつる	岡崎 恵美子	岡崎 恵美子	古山 輝子	古山 輝子	栗原 雅治	
	十四中校区	中野 紀子	岡 智子	岡 智子	藤澤 利江	藤澤 利江	塩崎 祐子	
	十五中校区	庄坪 トキ子	田中 三枝子	田中 三枝子	長谷部愉巳子	長谷部愉巳子	乃一 京子	
	十六中校区	社城 美代子	高橋 由記子	高橋 由記子	高橋 由記子	高橋 由記子	片桐 京子	
	十七中校区	甲斐 佳子	早瀬 美和	早瀬 美和	早瀬 美和	早瀬 美和	吉田 千恵	
	十八中校区	松井 園子	棚野 康子	棚野 康子	関 由紀	関 由紀	関 由紀	
	高校部会	森田 由加里	斎藤 愛枝	小関 麻抄好	岩崎 二三子	中田 雅代	森田 智子	

	役職名	2006年(平成18年)	2007年(平成19年)	2008年(平成20年)	2009年(平成21年)	2010年(平成22年)	
役員	会長	島田 忠雄	島田 忠雄	島田 忠雄	島田 忠雄	島田 忠雄	
	副会長	高野 アヤ子	高野 アヤ子	高野 アヤ子	高野 アヤ子	高野 アヤ子	高野 アヤ子
		渡辺 美代子	渡辺 美代子	渡辺 美代子	渡辺 美代子	渡辺 美代子	渡辺 美代子
		古川 勝	古川 勝	古川 勝	古川 勝	古川 勝	古川 勝
		那須 厚郎	那須 厚郎	那須 厚郎	那須 厚郎	那須 厚郎	那須 厚郎
		和田 省史	和田 省史	和田 省史	和田 省史	和田 省史	和田 省史
		中野 博通	中野 博通	中野 博通	中野 博通	中野 博通	中野 博通
	書記	加藤 美由紀	加藤 美由紀	加藤 美由紀	加藤 美由紀	加藤 美由紀	加藤 美由紀
		水谷 徳子	水谷 徳子	水谷 徳子	水谷 徳子	早瀬 美和	早瀬 美和
	会計	野中 將生	野中 將生	野中 將生	野中 將生	清水 千緋	清水 千緋
		早瀬 美和	早瀬 美和	早瀬 美和	早瀬 美和	藤本 さと子	藤本 さと子
	監事	奥村 八重子	奥村 八重子	奥村 八重子	奥村 八重子	平尾 和	平尾 和
		平尾 和	平尾 和	平尾 和	平尾 和	橘高 美那子	橘高 美那子
事務局	事務局長	杉谷 修	杉谷 修	杉谷 修	杉谷 修	西田 益久	
	事務局次長	中尾 隆一	中尾 隆一	中尾 隆一	中尾 隆一	----	
相談役	村田 佐市	村田 佐市	村田 佐市	村田 佐市	高畠 光典	高畠 光典	
	高畠 光典	高畠 光典	高畠 光典	高畠 光典	永田 嘉朗	永田 嘉朗	
	永田 嘉朗	永田 嘉朗	永田 嘉朗	永田 嘉朗	佐藤 明子	佐藤 明子	
	佐藤 明子	佐藤 明子	佐藤 明子	佐藤 明子	田原 翠成	田原 翠成	
	田原 翠成	田原 翠成	田原 翠成	田原 翠成	岡島 敬三	山田 晨茨	
	岡島 敬三	岡島 敬三	岡島 敬三	岡島 敬三	山田 晨茨	----	
名誉委員	----	----	----	----	野中 將生	野中 將生	
	----	----	----	----	奥村 八重子	奥村 八重子	
常任委員	一中校区	正木 加津美	中川 明美	中川 明美	上代 博子	上代 博子	
	二中校区	猪岡 由美子	玉田 由香里	玉田 由香里	種田 一美	種田 一美	
	三中校区	中山 千恵子	武田 敦子	武田 敦子	坂江 和枝	坂江 和枝	
	四中校区	加藤 美代子	加藤 美代子	加藤 美代子	佐藤 明美	佐藤 明美	
	五中校区	森田 智子	森田 智子	森田 智子	森田 智子	森田 智子	
	六中校区	松本 多恵子	松本 多恵子	松本 多恵子	松本 多恵子	松本 多恵子	
	七中校区	小西 みゆき	小西 みゆき	小西 みゆき	永田 優子	永田 優子	
	八中校区	清水 千緋	清水 千緋	清水 千緋	酒井 泰子	酒井 泰子	
	九中校区	豊田 裕美	森 淳子	井上 知子	竹中 奈緒美	竹中 奈緒美	
	十中校区	光久 悦代	光久 悦代	光久 悦代	森田 一美	森田 一美	
	十一中校区	前川 順子	守 悦子	守 悦子	土山 明代	土山 明代	
	十二中校区	山本 えり子	山本 えり子	山本 えり子	山本 えり子	山本 えり子	
	十三中校区	栗原 雅治	大田 深雪	大田 深雪	武部 智子	武部 智子	
	十四中校区	塩崎 祐子	有山 人美	有山 人美	岩崎 二三子	岩崎 二三子	
	十五中校区	乃一 京子	清水 高子	清水 高子	清水 高子	清水 高子	
	十六中校区	片桐 京子	本田 由紀子	本田 由紀子	松下 真貴子	松下 真貴子	
	十七中校区	吉田 千恵	吉田 千恵	吉田 千恵	檜岡 ゆか	檜岡 ゆか	
	十八中校区	関 由紀	関 由紀	木村 邦子	木村 邦子	木村 邦子	
高校部会	黒川 喜久	北室 真喜子	藤本 さと子	小川 幹子	吉田 文子		



役職名		2011年(平成23年)	2012年(平成24年)	2013年(平成25年)	2014年(平成26年)	2015年(平成27年)	
役 員	会 長	島田 忠雄	島田 忠雄	島田 忠雄	島田 忠雄	島田 忠雄	
	副 会 長	高野 アヤ子	高野 アヤ子	高野 アヤ子	高野 アヤ子	高野 アヤ子	高野 アヤ子
		渡辺 美代子	渡辺 美代子	渡辺 美代子	渡辺 美代子	渡辺 美代子	渡辺 美代子
		古川 勝	古川 勝	那須 厚郎	那須 厚郎	那須 厚郎	那須 厚郎
		那須 厚郎	那須 厚郎	平尾 和	森島 孝司	森島 孝司	森島 孝司
		平尾 和	平尾 和	森島 孝司	中川 博史	中川 博史	中川 博史
		西田 益久	西田 益久	中川 博史	-----	青木 康二	青木 康二
	書 記	加藤 美由紀	加藤 美由紀	早瀬 美和	早瀬 美和	早瀬 美和	清水 千緋
		早瀬 美和	早瀬 美和	萩原 美香	萩原 美香	萩原 美香	植松 英子
	会 計	清水 千緋	清水 千緋	清水 千緋	清水 千緋	清水 千緋	大岩 枝美
		藤本 さと子	藤本 さと子	植松 英子	植松 英子	植松 英子	若柳 玉貴
	監 事	橘高 美那子	橘高 美那子	橘高 美那子	橘高 美那子	橘高 美那子	橘高 美那子
		佐藤 明美	佐藤 明美	佐藤 明美	佐藤 明美	佐藤 明美	佐藤 明美
事務局	事務局 長	西田 益久	西田 益久	西田 益久	西田 益久	西田 益久	
	事務局次長	大枝 明	大枝 明	濱崎 禎二	濱崎 禎二	濱崎 禎二	
相 談 役	高畠 光典	高畠 光典	高畠 光典	高畠 光典	高畠 光典	高畠 光典	
	永田 嘉朗	永田 嘉朗	永田 嘉朗	永田 嘉朗	永田 嘉朗	佐藤 明子	
	佐藤 明子	佐藤 明子	佐藤 明子	佐藤 明子	佐藤 明子	田原 翠成	
	田原 翠成	田原 翠成	田原 翠成	田原 翠成	田原 翠成	山田 晨茨	
	岡島 敬三	岡島 敬三	岡島 敬三	山田 晨茨	-----	-----	
	山田 晨茨	山田 晨茨	山田 晨茨	-----	-----	-----	
名 誉 委 員	和田 省史	和田 省史	-----	-----	-----	-----	
	野中 將生	野中 將生	野中 將生	野中 將生	野中 將生	野中 將生	
	奥村 八重子	奥村 八重子	奥村 八重子	奥村 八重子	奥村 八重子	奥村 八重子	
常 任 委 員	一 中 校 区	山本 温子	山本 温子	若柳 玉貴	若柳 玉貴	加藤 恵美子	
	二 中 校 区	笠岡 栄子	笠岡 栄子	岡島 佳子 / 山田 久美子	山田 久美子	堀江 愛	
	三 中 校 区	萩原 美香	萩原 美香	中島 葉子	中島 葉子	藤岡 さつき	
	四 中 校 区	波戸 卓子	波戸 卓子	山本 真由美	山本 真由美	山本 真由美	
	五 中 校 区	森田 智子	森田 智子	長田 公代	長田 公代	長田 公代	
	六 中 校 区	松本 多恵子	松本 多恵子	松本 多恵子	松本 多恵子	松本 多恵子	
	七 中 校 区	上田 弘子	上原 香	徳原 真紀	徳原 真紀	楓 仁美	
	八 中 校 区	酒井 泰子	松本 直恵	山下 リカ	山下 リカ	西川 稔美	
	九 中 校 区	大岩 枝美	大岩 枝美	高橋 勝美	高橋 勝美	福尾 しおり	
	十 中 校 区	乗光 美千代	乗光 美千代	小林 里実	小林 里実	小林 里実	
	十一中校区	木下 奈美	木下 奈美	荒木 智子	荒木 智子	田上 磨智美	
	十二中校区	山本 えり子	山本 えり子	渋谷 純子	渋谷 純子	福島 郁代	
	十三中校区	植松 英子	植松 英子	新保 育子	新保 育子	岩崎 直子	
	十四中校区	表西 純子	表西 純子	有馬 和子	有馬 和子	片岡 直美	
	十五中校区	清水 高子	清水 高子	清水 高子	清水 高子	清水 高子	
	十六中校区	石橋 千秋	石橋 千秋	金原 陽世	金原 陽世	笠井 隆子	
	十七中校区	加納 昌美	加納 昌美	加納 昌美	加納 昌美	加納 昌美	
	十八中校区	有馬 佳代	有馬 佳代	有馬 佳代	有馬 佳代	有馬 佳代	
高 校 部 会	岡田 真由美	米谷 美貴子	服部 千加子	浅見 寿美江	我妻 和江		

	役職名	2016年(平成28年)	2017年(平成29年)	2018年(平成30年)	2019年(令和元年)	2020年(令和2年)	
役員	会長	島田 忠雄	島田 忠雄	島田 忠雄	島田 忠雄	島田 忠雄	
	副会長	高野 アヤ子	渡辺 美代子	渡辺 美代子	渡辺 美代子	渡辺 美代子	渡辺 美代子
		渡辺 美代子	森島 孝司	森島 孝司	森島 孝司	森島 孝司	森島 孝司
		那須 厚郎	中川 博史	中川 博史	中川 博史	中川 博史	中川 博史
		森島 孝司	青木 康二	青木 康二	青木 康二	青木 康二	青木 康二
		中川 博史	古川 博夫	古川 博夫	古川 博夫	古川 博夫	古川 博夫
		青木 康二				植松 英子	植松 英子
	書記	清水 千緋	清水 千緋	清水 千緋	清水 千緋	清水 千緋	清水 千緋
		植松 英子	植松 英子	植松 英子	植松 英子	杉本 奈津子	杉本 奈津子
		会計	大岩 枝美	大岩 枝美	大岩 枝美	大岩 枝美	大岩 枝美
			若柳 玉貴	若柳 玉貴	若柳 玉貴	若柳 玉貴	若柳 玉貴
	監事	橘高 美那子	橘高 美那子	橘高 美那子	橘高 美那子	橘高 美那子	
佐藤 明美		田上 磨智美	田上 磨智美	田上 磨智美	田上 磨智美		
事務局	事務局長	西田 益久	西田 益久	西田 益久	西田 益久	西田 益久	
	事務局次長	濱崎 禎二	濱崎 禎二	濱崎 禎二	濱崎 禎二	濱崎 禎二	
相談役		高島 光典	高島 光典	高島 光典	高島 光典	高島 光典	
		佐藤 明子	佐藤 明子	佐藤 明子	佐藤 明子	佐藤 明子	
		田原 翠成	田原 翠成	田原 翠成	田原 翠成	田原 翠成	
		山田 晨茨	山田 晨茨	山田 晨茨	高野 アヤ子	高野 アヤ子	
		-----	高野 アヤ子	高野 アヤ子	那須 厚郎	那須 厚郎	
		-----	那須 厚郎	那須 厚郎	-----	-----	
常任委員	一中校区	加藤 恵美子	飛鳥井 良枝	飛鳥井 良枝	大谷 友紀	大谷 友紀	
	二中校区	堀江 愛	林 久美子	林 久美子	林 久美子	林 久美子	
	三中校区	藤岡 さつき	百瀬 真希子	百瀬 真希子	駒澤 奈美	駒澤 奈美	
	四中校区	山本 真由美	大家 玲子	大家 玲子	横田 裕子	横田 裕子	
	五中校区	長田 公代	小林 仁子	小林 仁子	村瀬 令子	村瀬 令子	
	六中校区	松本 多恵子	國見 静香	國見 静香	國見 静香	-----	
	七中校区	楓 仁美	内田 利行	内田 利行	宮城 まさみ	宮城 まさみ	
	八中校区	西川 稔美	深美 あき子	深美 あき子	富岡 恵子	富岡 恵子	
	九中校区	福尾 しおり	小村 佳代	小村 佳代	宮城 侑子	宮城 侑子	
	十中校区	小林 里美	木寺 好子	木寺 好子	木寺 好子	-----	
	十一中校区	田上 磨智美	杉本 奈津子	杉本 奈津子	中谷 祐加	中谷 祐加	
	十二中校区	福島 郁代	釣船 由美子	釣船 由美子	若山 なお子	若山 なお子	
	十三中校区	岩崎 直子	楠部 ゆかり	楠部 ゆかり	北澤 裕美子	北澤 裕美子	
	十四中校区	片岡 直美/藤澤 利江	有澤 陽子	有澤 陽子	有澤 陽子	有澤 陽子	
	十五中校区	橋本 和正	橋本 和正	橋本 和正	田中 あかね	田中 あかね	
	十六中校区	笠井 隆子	福田 みどり	福田 みどり	守屋 千裕	守屋 千裕	
	十七中校区	加納 昌美	加納 昌美	加納 昌美	加納 昌美	加納 昌美	
	十八中校区	有馬 佳代	有馬 佳代	有馬 佳代	有馬 佳代	有馬 佳代	
	庄内さくら学園中校区	-----	-----	-----	-----	國見 静香	
	高校部会	矢澤 美代子	平田 早映子	石中 三千代	山本 智子	八重尾 美樹	

## 編集後記

世界的な新型コロナウイルス感染拡大が未だ収まらない中、人権協結成50周年を迎え、記念事業の一環として、記念誌を発行することになりました。

さて、1970年(昭和45年)「豊中市を差別のない明るいまちにしたい」という固い決意のもと、人権協が結成されて50年という長い年月の間に昭和、平成、令和と元号が代わり、社会の変化にともない、人権問題も多様化しています。お互いを思いやる心で、人権が尊重され、幸せに生きられる社会の実現を願ってやみません。

昨年度に記念誌特別部会が発足して以来、会議を重ね、企画・資料収集・原稿依頼・編集・校正作業など、委員一丸となって取り組んでまいりました。

さらなる未来に向かって、たくさんの仲間の“あしおと”になるよう、人権尊重の輪を広げ、差別のない明るく住みよい町の実現をめざして、啓発活動を続けてまいります。

最後になりましたが、本誌発行にあたり、ご寄稿いただきました皆さま、編集にお力添えいただきました皆さまに心よりお礼申し上げます。

記念誌特別部会一同

### 編集担当

渡辺 美代子（副会長） 植松 英子（副会長） 清水 千緋（書記）  
杉本 奈津子（書記） 若柳 玉貴（会計） 田上 磨智美（監事）

人権協結成50周年

# あしおと

発行日	2021年（令和3年）3月
編集・発行 事務局	豊中市人権教育推進委員協議会 豊中市教育委員会・社会教育課 （豊中市中桜塚 3-1-1） 電話 06-6858-2580
印刷	やまかつ株式会社







豊中市人権擁護都市宣言  
シンボルマーク

結成50周年  
豊中市人権教育推進委員協議会